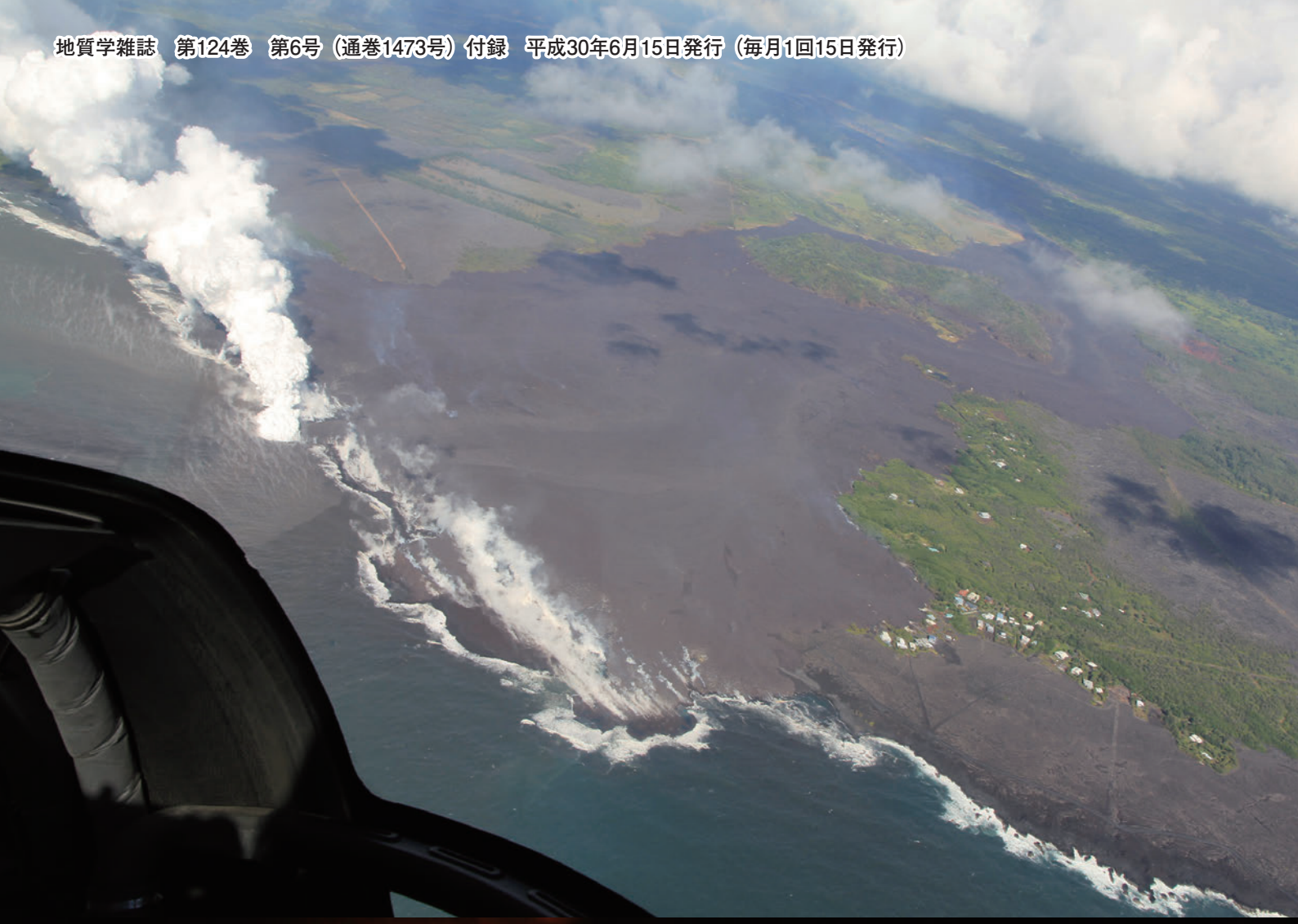
地質学雑誌　第124巻　第6号（通巻1473号）付録　平成30年6月15日発行（毎月1回15日発行）



# 日本地質学会 *News*

Vol.21 No.6 June 2018

# 日本地質学会*News*

Vol.21 No.6 June 2018

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
**編集委員長　小宮　剛**
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

# *Contents*

**会長挨拶（会長　松田博貴）**……2

2018年度新執行理事会 紹介……3

案内……5
2018年度第1回地区防災学会シンポジウム「九州北部豪雨から１年を振り返って ～九州北部豪雨の教訓と地域防災力の在り方～」／第72回地学団体研究会総会（市原）／国際ゴンドワナ研究連合（IAGR）2018年会・第15回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム／第8回学生のヒマラヤ野外実習ツアー参加者募集

各賞・研究助成……6
2019年度東北海洋生態系調査研究船（学術研究船）新青丸，深海潜水調査船支援母船よこすか及び深海調査研究船かいれい共同利用公募／平成30年度（第59回）東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦／平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学者賞受賞候補者の推薦

公募……6
海洋研究開発機構生物地球化学研究分野研究員もしくは技術研究員募集

紹介……7
野尻湖のナウマンゾウ―市民参加でさぐる氷河時代―　野尻湖発掘調査団（塚原弘昭）

CALENDAR……8

博物館だより……9
福井県立恐竜博物館　特別展「獣脚類：鳥に進化した肉食恐竜たち」

**札幌大会の情報**……10
巡検コースのご紹介／宿泊予約もお早めに！／小さなEarth Scientistのつどい～第16回小，中，高校生徒「地学研究」発表会～　参加高募集中／大会へお子様をお連れになる予定の方へ／巡検等コース紹介

地学教育のページ……16
小さなEarth Scientistのつどい～第16回小，中，高校生徒「地学研究」発表会～　参加校募集中

院生コーナー……17
J-DESCコアスクール　コア同位体分析コース2018　参加報告（佐々木聡史）

学会記事……19
2017年度第3回理事会議事録／ 2017年度第8回執行理事会議事録／2017年度第9回執行理事会議事録

表紙紹介……22
ハワイ島，キラウエア火山2018年噴火の写真（古川邦之・齋藤武士ほか）

**地質学雑誌のあり方についてのアンケート**／このアンケートを行う背景について……23

## 事務局営業カレンダー

お休み

6月 June

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |

7月 July

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 | | | | |

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都豊島区東池袋4－41－24

# 会長挨拶

このたび2018年総会におきまして，2020年までの2年間の任期にて，一般社団法人日本地質学会の会長（代表理事）に選任されました．与えられた任期の間，どのように学会を運営し，そしてより魅力ある学会へと進化させていくか，会員の皆様に所信を述べさせていただき，ご挨拶とさせていただきます．

日本地質学会は，本年，創立125周年を迎えました．この節目を新たなスタートとして，日本地質学会の継続的な維持・発展のために，１）社会への発信と協働，ならびに，２）学会運営と組織体制の再構築，を基本方針として，次の25年の学会の礎づくりに注力したいと考えております．

まず，社会への発信と協働において学会の最も重要な事業は，研究活動・成果の発信であることは言うまでもありません．日本地質学会は，地球科学系最大の学会であると共に，地質学界をリードする学会です．成果発信の場である学術大会・学術誌の充実はもとより，新たな研究分野・課題の積極的な創出・推進が使命であると考えます．これらを進めていくには，国内・国際学術団体との連携・協力も不可欠です．これについては，重点的に補強した学術研究部会と編集出版部会を中心に推し進めてまいります．

また地質学は，防災・減災，社会基盤整備，あるいは環境問題など，私たちの生活と密接に関わる学問分野です．これらの課題解決には，行政機関・産業界との協働・学術連携が不可欠です．これら産官学との連携により，社会の持続的発展における地質学の重要性を，社会へと発信することが重要です．さらに全国の博物館やジオパークとの連携，あるいは市民講演会などを通じて，一般市民や児童・生徒に向けた普及啓蒙活動も推進します．学校における地学教育の充実も，将来を担う次世代後継者育成において重要な課題です．これらについては，広報部会・社会貢献部会を中心に進めてまいります．

一方，学会運営と組織体制の再構築では，学会の持続的な事業活動に必要な財務基盤の見直しと様々な階層・地域の会員へのサービス強化，支部組織の補強を進めます．日本地質学会は，多くの他の理学系学会同様，1990年代前半をピークに会員数は減少を続け，この25年間で最大時の約7割の会員数にまでなりました．しかしその間も，継続的な地質学雑誌の出版に加え，新たにIsland Arc誌を創刊し，各地方支部での学術大会も毎年活発に開催してまいりました．これはひとえに，会員の皆様とこれまでの学会執行部と事務局の尽力の賜物と考えております．

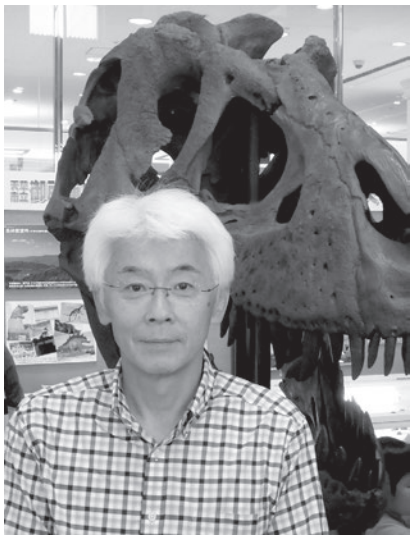
しかし少子高齢化社会を迎え，会員数減少が避けられない現状では，継続的な学会活動を維持するためには，財務体質の抜本的な改善・強化が喫緊の課題です．そのためには学会事業の継続と会員サービスを考慮しつつ，事業の重点化と集中を進めなければなりません．特に出版事業のあり方と社会事業の収益化は重要であり，学会事業・会員サービスの原資確保に努めてまいります．これについては，運営財政部会を中心に各部会が連携して検討を進めてまいります．

また学会には，様々な会員が属しています．学会活動の活性化には，会員一人一人に学会に属している意義・意識を持っていただけることが重要であり，そのためには会員のニーズにあった組織運営とサービスが必要であり，ニュース誌をはじめとした広報媒体の充実と，情報提供と会員サービスの向上を推し進めます．また地質技術者教育など，民間企業に所属する会員にとって有意義な事業の展開に努めます．これらについては，広報部会・社会貢献部会が中心となって推進いたします．

これら2つの基本方針に基づいた学会運営には，会員の皆様をはじめとして，執行理事会，専門部会や地方支部が，情報を共有して活動を展開することが必要です．佐々木・平田両副会長をはじめ理事会で力をあわせ，従来以上に各組織間の連携強化を図りたいと考えております．特に事業活動の柱である各専門部会と地方支部の活動については，専門部会連絡会議，支部長連絡会議の機能強化を図ると共に最大限に活用して，地質学会が社会で有効に機能し，存在意義があることを会員・社会に再認識されるようしたいと考えています．

会員の皆様には，充分とは言えない内容かもしれませんが，着実に土台を強固にし，次の25年に向けて新たな一歩が確実に踏み出せるよう，長期的視点にたって努めてまいりたいと思います．何卒，よろしくお願いします．

2018年6月1日



一般社団法人日本地質学会　会長（代表理事）
松田博貴（熊本大学）

# 2018年度 新執行理事紹介

任期：2018年5月19日から
2020年総会まで

### 副会長：佐々木和彦（応用地質㈱）

自然災害や環境問題に対処し，効果的なインフラ活用により持続可能な社会を構築するためには，地球を理解する学問である地質学は不可欠であり，地質学にもとづく専門技術が必要であることは言うまでもありません．私は副会長として会長を補佐し，主に広報部会や社会貢献部会とともに，タイムリーな地質情報の発信，様々な広報活動，市民向けの事業活動などを展開して，地質学の重要性を社会にアピールする学会活動の「見える化」を推進します．

### 副会長：平田大二（神奈川県博）

創立125周年を迎えた歴史ある日本地質学会の副会長を務めることになり，あらためてその責任の重さを感じています．本学会は地質学に関する学術研究の発展に貢献することを活動の基本に置いていますが，その成果をあらゆる形で社会に還元することも求められています．そのためには，人材育成が欠かせません．高等教育をはじめ初等，中等教育や生涯教育における活動も重要です．本学会と地質学の発展のためにできることを会員の皆さんと共に考え，活動できればと思います．

### 常務理事：齋藤　眞（産総研）

引き続き常務理事として，学会全体の運営に携わることになりました．また地質学雑誌のタスクフォース，防災学術連携体への参画など，学会内外の問題解決や連携も担当します．これまで，九州の地質の研究や，全国の地質を対象に20万分の1日本シームレス地質図V2の作成を推進するとともに，地質の日，地質情報展，産学官連携など，地質が活用される社会を目指して参りました．今後もこれらの活動を進め，地質の存在価値向上のに尽力したいと思います．

### 副常務理事：安藤寿男（茨城大）

前期より引き続き執行理事（副常務）として，松田会長のもと，佐々木・平田副会長，斎藤常務を補佐しながら，地質学と日本地質学会発展のため，運営に貢献できるよう尽力する所存です．2013年から本年（2018）年末まで地質科学国際研究計画（IGCP）608を主宰してきましたが，ニュース誌やIsland Arc等で大変お世話になった借りを返せるように，スムーズな世代交代や新しい会員を糾合できる魅力ある学会の構築に務めていきたいと思います．

### 運営財政部会：緒方信一（中央開発㈱）

125周年にあたり，会員の皆様並びにこれまで地質学を育てて頂いた皆様に感謝申し上げます．2018年，更なるスタートラインに立った科学の起源である地質学は，これまで分化してきた科学の一つではなく，再び理学・工学・社会学を総合した科学として再進化しつつあります．私は，松田会長を支える一人として西財政担当理事とともに，学会活動の円滑な運営と財政の健全化を更に進め，学術研究の発展に尽くしてまいります．

### 運営財政部会：西　弘嗣（東北大）

少子高齢化，財政難といった厳しい状況が日本だけでなく世界にも続いており，地質学会の財政も徐々にその影響を受けてきているように思えます．しかし，持続的な社会のキーワードである防災，資源，環境に関しては，地質学は大きな貢献をしています．また，社会的なインフラ整備を考える上でも，地質学は欠かせません．地質学は，これからも社会にとって重要な分野であることに変わりはありませんので，学会活動を通じて社会への貢献とその発展に尽くしていければと思います．

### 広報部会：坂口有人（山口大）

地質学を代表する学会として社会に対して積極的に発言し，地質学の重要性を説き，そのプレゼンスを示せる広報活動を行います．そのためにプレスリリースや広報誌，ウェブなど多くのチャンネルからの情報発信強化に努めます．とりわけ昨年フリーペーパー化に踏み切った「ジオルジュ」は改革の途にあり，読者獲得と収支改善に努力と工夫を重ねて参ります．

### 広報部会：小宮　剛（東京大）

地質学は地球科学の基盤をなし，系外惑星や惑星探査から生命地球進化，防災・資源・環境分野まで広い裾野を持ち，一次記載のみならず核心的データを提供することで様々な分野で貢献してきました．その魅力ある地質学を次の世代に伝え，多くの分野と連携することで，これまで以上に活発な学会となるよう尽力したいと思います．

### 学術研究部会：磯崎行雄（東京大）

21世紀も間もなく最初の四半世紀終了の節目に差し掛かります．科学の先端分野の進歩はますます早くなりつつあり，組織自体もそれに呼応して変っていかねばなりません．新規執行理事（学術研究部会）に選ばれました．東アジアの主導学会として日本地質学会が軸となる学術研究・国際交流・若手育成など，改めて新風を吹き込むために努力します．

### 学術研究部会：ウォリス サイモン（東京大）

この10年間日本地質学会は，海外の国・地域の地質学会との連携を強化してきました．ロンドン地質学会と協力して開催した津波と地質学をテーマとした2件の国際シンポジウム及び関連したIsland Arc誌の特集号とロンドン地質学会のSpecial Publicationの出版がその代表的な例です．執行理事として今までの実績をベースにさらなる国際的な活動を実現し，日本地質学会の発展に寄与したいと考えています．

### 学術研究部会：岡田　誠（茨城大）

前回に引き続き，執行理事（行事委員長）を拝命いたしました．巡検時のレンタカー問題や，学会会期中の台風等対応など，過去2年間，行事委員会としてイレギュラーな判断を迫られることがありましたが，周囲の皆様に助けられてこれまでやってこられました．これらの経験を生かし，会員減という逆風の中，少しでもより活発でより楽しい学会運営が行えるよう尽力して参りますので，どうぞよろしくお願いいたします．

### 学術研究部会：辻森　樹（東北大）

専門部会の集合体的側面から地球惑星科学分野のなかでの存在感，そして学術団体としての強い魅力を兼ね揃えたコミュニティへ変化する必要性を感じています．学問の加速化に対応できる現役世代の活性化，世界に信頼される次世代の育成など，取り組むべき課題は沢山あります．長い伝統とこれまでの運営に敬意を表しつつ，新しい世代の日本地質学会へのトランジションに積極的に寄与したいと存じます．

### 編集出版部会：大藤　茂（富山大）

2年間，地質学雑誌の担当をさせていただきます．ここ1～2年は125周年特集号の原稿に助けられていますが，本誌への投稿原稿数は減少傾向にあります．一方，本誌の和文学術誌としての重要性は変わっておらず，非会員の方々から多様な原稿掲載への期待が寄せられることもあります．こういった状況の中で，地質学雑誌をどのような形で維持・発展させていくか．皆さまと一緒に考えながら活動して参ります．どうぞよろしくお願い申し上げます．

### 編集出版部会：田村芳彦（JAMSTEC）

Island Arc担当の執行理事としてあと2年お付き合い下さい．Island Arcのインパクトファクター（IF）が下がり，どうしたものかと悩んでいました．しかし，ポスドク研究者や学生さんにとってはIsland Arcに投稿するビッグチャンスではないかと思ってきました．腐っても鯛，といいますが，Island ArcはIFを持つ日本地質学会の国際誌です．また，個人の業績としては，雑誌のIFより自分の論文の被引用回数が重要です．さらに，多く引用された論文はIsland Arc賞の確率が高く，Island Arc賞の受賞は輝かしい業績です．あなたの未来にIsland Arcが貢献します．

### 社会貢献部会：星　博幸（愛知教大）

これまで行事委員長や副常務理事，各賞推薦委員長など，いくつかの異なる立場から学会運営に携わってきました．今期は社会貢献担当として学会運営を支えます．学会活動の基軸は当然ながら学術ですが，学術の発展には国民の理解と協力が大きな力となります．学会として学術の成果を国民に広く，多様な方法で伝えることによって国民の理解と協力が得られ，それがさらなる学術発展の裾野拡大につながります．社会貢献部会の活動に全力であたります．

### 社会貢献部会：廣木義久（大阪教大）

今期も引き続き社会貢献部会の地学教育関係を担当します．学会におけるこれまでの地学教育関係の活動を継続しつつ，地学教育の諸課題について，日本地質学会および学会員に利する事業に取り組んでいきたいと思います．

### 社会貢献部会：中澤 努（産総研）

今期は社会貢献部会の普及事業を担当させていただきます．地質学の普及活動は学会の社会貢献事業の大きな柱であり，昨今その重要性は高まっていると思います．本学会が地質の日イベントとして日本応用地質学会と共同で実施している街中ジオ散歩はすでに開催7回を超え，定着しつつあります．このような普及活動をさらに発展させることで，地質学の裾野を拡げていければと思っております．よろしくお願いいたします．

## ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します.

### 2018年度第1回 地区防災学会シンポジウム「九州北部豪雨から１年を振り返って ～九州北部豪雨の教訓と地域防災力の在り方～」

日 時：2018年7月28日（ 土 ）13時 ～ 16時 半（予定）
どなたでも参加できます（参加無料）
場所：九州大学 大橋キャンパス多次元デザイン実験棟（福岡市南区）
対象：地域防災力の強化に興味のある方（参加費無料）定員150名
40名以上の死者・行方不明者を出した九州北部豪雨から１年が経過しました．記録的な短時間での降雨による災害が残した教訓には多様なものがあります．本シンポジウムでは，九州北部豪雨の教訓を踏まえたコミュニティや企業による地域防災力の強化や地区防災計画づくりの在り方について考えます．
【プログラム】
（司会）尾方義人 九州大学芸術工学研究院准教授
（報告）
室崎益輝　兵庫県立大学教授（地区防災計画学会会長）
矢守克也　京都大学防災研究所教授
加藤孝明　東京大学生産技術研究所准教授
林　秀弥　名古屋大学大学院法学研究科教授
縄田健悟　福岡大学人文学部講師
前田享史　九州大学芸術工学研究院教授
朝廣和夫　九州大学芸術工学研究院准教授
中村美亜　九州大学芸術工学研究院准教授
藤　智亮　九州大学芸術工学研究院准教授
（パネルディスカッション）「地区防災の本質と多様」
問い合わせ先：地区防災計画学会事務局
530-0001 大阪市北区梅田1-3-1-800 大阪駅前第1ビル8階
一般財団法人関西情報センター気付
mail:info@gakkai.chiku-bousai.jp
http://www.gakkai.chiku-bousai.jp/

### 第72回地学団体研究会総会（市原）

日程：2018年8月17日（金）～ 20日（月）
会場：千葉県市原市　市原市市民会館
主な日程
17日（金）
　午前・午後　プレ巡検
　18:00 ～　　夜間小集会
18日（土）
09:30 ～ 11:30　学術シンポジウム「房総半島の隆起」
11:30 ～ 13:30　ポスターセッションコアタイム
13:30 ～ 15:00　学術シンポジウム「房総半島の隆起」
15:15 ～ 17:45　総会議事
18:00 ～　　大コンパ
19日（日）
09:10 ～ 11:50　科学運動シンポジウム「（仮題）高レベル放射性廃棄物の地層処分について」
11:50 ～ 13:00　ポスターセッションコアタイム
13:00 ～ 15:00　総会記念講演：岡田　誠氏（茨城大学教授）「（仮題）チバニアンと地磁気逆転」
15:00 ～ 16:30　ワークショップ
20日（月）　ポスト巡検
プレ巡検一覧（8/17）
Ａ：これが？と必ず呆れる江戸川のスーパー堤防
Ｂ：千葉県立中央博物館「恐竜展」と国特別史跡・加曽利貝塚見学
ポスト巡検一覧（8/20）
Ｃ：「チバニアン」と養老川周辺の地形・地質
Ｄ：銚子ジオパーク～太平洋に突き出た2億年のジオストーリー
Ｅ：嶺岡帯の地質構造とオフィオライト岩類
Ｆ：房州石のふるさと・鋸山の石切場を歩く
Ｇ：浦安の沖積・埋立地を歩いて掘る
**総会事前申込・巡検申込締切：7月13日（金）**
（いずれもホームページから申込み）
参加費：
　一般会員：事前申込3,000円（当日3,500円）
　一般会員外：事前申込3,500円（当日4,000円）
　学生・院生：500円（会員・会員外とも）
詳細は総会ホームページをご覧下さい．（「市原総会」で検索）
http://ichihara2018.com/

### 国際ゴンドワナ研究連合（IAGR）2018年会・第15回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム

　シンポジウムでは超大陸，クラトン，造山帯，生命，資源，環境などがテーマである．
日程：
2018年9月23日：参加登録とアイスブレーカー
24日～ 26日：IAGR総会，シンポジウム
27日～ 28日：野外巡検（Qinling Mountains）
場所：中国西安市Howard Johnson Ginwa Plaza Hotel
www.chinadiscounthotel.com/zian/howard-johnson/hotel.html
参加費：300米ドル（一般），150ドル（学生）
2nd Circular:
www.geocities.jp/gondwanainst/symposium/IAGR2018Onwards/Secondcircular-IAGR
**発表要旨締切：2018年6月30日**
問い合わせ：Prof. Yunpeng Dong
E-mail: dongyp@nwu.edu.cn

### 第8回学生のヒマラヤ野外実習ツアー参加者募集

　実習コースと旅程は従来とほぼ同じで，西中部ヒマラヤのアンナプルナ連峰の北側からカリガンダキ河～ティナウ川に沿って南のルンビニまで，テチスヒマラヤ帯からガンジス平原に至るヒマラヤ造山帯を構成するすべての地質帯をカバーする10日間の野外ツアーと，カトマンズでのトリブバン大学との合同セミナー，報告会，市内見学ツアーなどの2-3日間を含む．
後援：日本地質学会，日本応用地質学会，地学団体研究会，ネパール地質学会，ネパール地すべり学会，国際ゴンドワナ研究連合．
日程：2019年3月4日～ 18日（仮日程で，9月頃には確定）．
**参加申込期間と申込金：5月10日～ 12月31日，申込金は暫定参加費の半額．**
引率・指導：ヒマラヤの地質研究専門の元／現大学教員（日本・ネパール）数人．
実施最少／最大人数：3人/20人（ネパール人など外国人参加者数人を含む）．
暫定参加費：20万円（学生・院生），25万円（一般），30万円（公費派遣者）で，ツアー終了後残金を返済する（過去7回のツアーの一人平均残金は35000円程度）．
　野外実習ツアーのカリガンダキコースは貸切ジープ付き添いのトレッキング，その他のハイウエイコースは貸切バス利用で，高齢者など体力や足の弱い人も安心．到達最大標高は3,850mのムクチナート寺院，宿泊最大標高点は2,850m．高度に弱い人は下で一日待つことも可能．ツアーの現地参加，一部参加も可能．
お問い合わせ，お申込みと申込金振込先：
ゴンドワナ地質環境研究所　気付
学生野ヒマラヤ野外実習プロジェクト世話人会代表　吉田勝
www.geocities.jp/gondwanainst/geotours/Studentfieldex_index.htm
648-0091 和歌山県橋本市柱本147-2
メール：gondwana@oregano.ocn.ne.jp，電話/FAX：0736-36-7789
三菱ＵＦＪ銀行阿部野橋支店（072）
普通預金口座6601226　ゴンドワナチシツカンキョウ．

## 各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します.

### 2019年度東北海洋生態系調査研究船（学術研究船）新青丸，深海潜水調査船支援母船よこすか及び深海調査研究船かいれい共同利用公募

東北海洋生態系調査研究船（学術研究船）「新青丸」，深海潜水調査船支援母船「よこすか」，深海調査研究船「かいれい」による，全国の大学・研究機関のための共同利用研究航海を公募します．比較的短期間で実施できる日本周辺海域での海洋研究を募集します．ただし，MSR申請を必要とする海域は除きます．「新青丸」は2011年3月の東北地方太平洋沖地震が東北地方沿岸域に及ぼした影響を正確に把握し，生態系の再生過程，海水中の化学物質の挙動，海洋底の実態解明など，幅広い研究分野にわたって震災関連調査研究を継続して行うために，老朽化した学術研究船「淡青丸」の後継船として建造されました．応募にあたっては，この建造目的をご考慮ください．

申込資格：国・公・私立大学及び公的研究機関の研究者，並びにこれに準ずる者．

乗船資格：国・公・私立大学及び公的研究機関の研究者，並びにこれに準ずる者，大学院学生，研究生，学部学生です．学部学生の乗船については，主席研究員の同意と当該学生の指導教員の乗船が必要となります．大学院学生，研究生，学部学生は「学生教育研究災害傷害保険」等への加入を条件とします．乗船者が乗船する際には，「乗船及び積込誓約書」を提出していただきます．

申込方法：HP参照

申し込み先：東京大学大気海洋研究所 事務部 国際・研究推進チーム

〒277-8564 千葉県柏市柏の葉 5-1-5

TEL：04-7136-6009, 6010

FAX：04-7136-6039

e-mail：iarp@aori.u-tokyo.ac.jp

**申込期限：2018年7月30日（月）（厳守）**

http://www.aori.u-tokyo.ac.jp/coop/shinsei-yokosuka-kairei2019.html

### 平成30年度（第59回）東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦

**1．東レ科学技術賞**

候補者の対象：(1) 学術上の業績が顕著な方 (2) 学術上重要な発見をした方 (3) 効果が大きい重要な発明をした方 (4) 技術上重要な問題を解決して，技術の進歩に大きく貢献した方

章：1件につき，賞状，金メダルおよび賞金500万円（2件以内）

締切：平成30年10月10日（水）必着（**学会締切：8月31日**）

**2．東レ科学技術研究助成**

候補者の対象：国内の研究機関において自らのアイディアで萌芽的研究に従事しており，かつ今後の研究の成果が科学技術の進歩，発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者（原則として推薦時45才以下）．本助成が重要な研究費と位置づけられ，これにより申請研究が格段に進展すると期待されることが要件．

申請の基となった研究が海外で行われていても差し支えありません．

助成金額：総額1億3千万円．1件3千万円程度まで10件程度とします．

締切：平成30年10月10日（水）必着（**学会締切：8月31日**）

＊推薦をご希望の方は，上記学会締切までに執行理事会宛に応募書類をお送り下さい．

http://www.toray-sf.or.jp

問合先：公益財団法人東レ科学振興会

〒103-0021

東京都中央区日本橋本石町3丁目3番16号（日本橋室町ビル7階）

Tel：(03) 6262-1655　Fax：(03) 6262-1901

### 平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学者賞受賞候補者の推薦

**1. 表彰内容**

**(1) 科学技術賞**

1) 開発部門：我が国の社会経済，国民生活の発展向上等に寄与する画期的な研究開発若しくは発明であって，現に利活用されているもの（今後利活用されることが期待できるものを含む）を行った個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人

2) 研究部門：我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は開発を行った個人又はグループ

3) 科学技術振興部門：大学等の研究開発成果を活用したベンチャー創出，地域における産学官連携，研究開発の社会的必要性に関する研究等の分野において，科学技術の振興に寄与する活動を行い，顕著な功績があったと認められる個人又はグループ

4) 技術部門：中小企業，地場産業等において，地域経済の発展に寄与する優れた技術を開発した個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人

5) 理解増進部門：青少年をはじめ広く国民の科学技術に関する関心及び理解の増進等に寄与し，又は地域において科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与する活動を行った個人又はグループ

**(2) 若手科学者賞**

萌芽的な研究，独創的視点に立った研究等，高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者個人

**2. 受賞候補者の推薦について**

本表彰は，文部科学省研究振興局長が**推薦依頼を発出した機関（以下，推薦機関）からの推薦のみ受け付け**ています．なお，科学技術賞研究部門及び若手科学者賞については，日本国籍を有し海外を拠点に研究活動を行っている者の個人推薦を受け付けております．

**3. 推薦締切**

平成30年7月25日（水）（**学会締切：7月13日（金）**）

**4. 書類送付先**

〒100-8959　東京都千代田区霞が関3-2-2

文部科学省研究振興局振興企画課奨励室

電話番号：03-5253-4111，03-6734-4071（直通）

メールアドレス：sinsyore@mext.go.jp

詳しくは，http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/index.htm

## 公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

応募

### 海洋研究開発機構生物地球化学研究分野研究員もしくは技術研究員募集

募集対象部署：生物地球化学研究分野

研究内容：生物地球化学研究分野では，現在の海洋をはじめとする地球表層環境における生元素を中心とした物質循環に関わる研究，および過去の地球環境における物質循環の時間的変遷を理解するための研究を行っています．このたび，当分野で研究に従事する研究員または技術研究員を広く募集いたします．

関連する専門分野：地球化学，海洋学，地質学，生態学，微生物学，古生物学，分析化学等

研究員：機構業務への貢献のため，自立した研究者として，当該分野において世界をリードする研究を行い，主に主著論文を中心とした成果が期待されます．

技術研究員：機構業務への貢献のため，研究

開発，技術開発，技術革新等を中心とした業務を行います．
応募資格：※国籍・性別を問いません．
研究員：当該研究に関連する分野の博士号取得者．研究員にふさわしい研究業績を有する者．
技術研究員：当該研究もしくは研究開発に関連する分野の博士号取得者技術研究員にふさわしい研究技術開発の業績を有する者．
勤務地：海洋研究開発機構　横須賀本部
募集人数：1名
雇用形態：任期制職員（定年制職員への移行審査資格有り）
雇用期間：平成30年10月1日～平成35年3月31日
**応募締切：平成30年7月20日（金）17時必着**
応募方法等詳しくは，http://www.jamstec.go.jp/recruit/details/biogeochem20180720.html
問合先：海洋研究開発機構
人事部　人事任用課　採用担当
TEL 046-867-9583　FAX 046-867-9095
E-mail: recruit-app@jamstec.go.jp

## 紹　介

**野尻湖のナウマンゾウ**
**－市民参加でさぐる氷河時代－**

**野尻湖発掘調査団　著**

新日本出版社，2018年3月15日，165ページ，ISBN 978-4-406-0694-0，定価1,300円＋税

野尻湖湖畔で見つかっていた湯たんぽ状の化石（ナウマンゾウの臼歯だった）の由来を知りたいとの思いが発端となって，野尻湖の発掘調査が始まった．市民参加型で，運営も市民が分担し，手弁当で発掘作業を行い研究を進めるという独自のスタイルで1962年に始まり，現在まで55年を越えて発掘と研究が続いている．その内容は，今までに何度かまとめられ出版されている．本書は，最近の成果を入れて，これまでの活動をまとめ，市民向けにわかりやすく解説したものである．

本書の構成は，１章：氷河時代のナウマンゾウ，２章：楽しい野尻湖発掘，3章：50年の野尻湖発掘，4章：氷河時代の謎解き，5章：ナウマンゾウの狩人をもとめて，である．

とくに，以下の3点について紹介したい．(1) 野尻湖の発掘で明らかにされてきた学術上の成果，(2) この発掘調査が意図してきた市民や小中高生とともに科学する喜びを知ってもらう活動の展開，(3) 市民参加の発掘・調査・研究方式の進展．

**(1) 野尻湖の発掘で明らかにされてきた学術上の成果**

市民参加型発掘調査が，多数の市民の手で，長い年月継続されてきたことにより，詳細な層序表と，それに対比された大量の化石や人類遺物の記載が蓄積されてきた．調査の進行とともに，野尻湖地域の地史・環境変動が少しずつ明らかにされてきた．本書では，そこをわかりやすく魅力的に述べている．例えば，発掘調査前には，南方系の象と思われていたナウマンゾウの想像図が，発掘調査が進むにつれ，北方系のオオツノジカと共存し氷の上を歩く象の姿に，さらに調査が進み，象を狩猟する石器を使うヒトもそこに登場するようになる，など，中高生も含めた市民に，発掘調査の学術上の重要性がわかりやすく示されている．今後は，ナウマンゾウを狩りしていたと推定されるヒト（旧石器人）の解明も，主要な研究テーマの一つになると述べている．

**(2) この発掘調査が意図してきた市民や小中高生とともに科学する喜びを知ってもらう活動の展開**

野尻湖発掘調査に小学生時代から加わって，地学や自然に興味がわき，地学系の学科に入学したという学生を，紹介者は何人も知っている．発掘に参加した少年少女の将来に，この活動が与えているインパクトは計り知れない．経験ある高校生が初参加の大人に発掘の手ほどきをしている．野尻湖ならではの光景だという．地学現象は，市民自身の手で裏付け調査をして，その謎解きに貢献できる部分がある．野尻湖発掘も，人間誰でも持っている「なぜだろう」という探求心を満たし，本物に触れる喜びを得る魅力をもっている．将来，地学関連の職業につきたくなるかどうかだけではなく，事象を筋道立てて理解できる大人になるために大きな役を果たしていると思われる．

親子三世代での参加や，高校時代の先生を誘って参加したら，先生の先生が参加していて，発掘現場で師弟三代が顔を合わせたなどというエピソードも紹介されている．人のつながりもこの活動の魅力になっている．

**(3) 市民参加の発掘・調査・研究方式の進展**

本書の副題に「市民参加でさぐる氷河時代」とあるが，市民参加の自然の探求，とでもいうべき独創的な学習・調査・研究方法によって，この活動の長期にわたる継続性と成果の蓄積が生み出されたことが良く理解できる．「最初から専門家だった人はいない」とのことで，発掘の体験から，運営まで参加者が適材適所でなされていると述べている．

これを実行し，継続するのは事務局であるが，これも，手弁当の人材によっている．事務局の仕事は地味ではあるが，発掘の成否に大きくかかわってくる．それを本書では「事務局は縁の下の力持ち」と表現している．地質図を読み解き，次期発掘の設計図を作る．たくさんの市民が楽しく活動できるように，市民個々人の仕事の分担と手配をする．調査団事務局が，このような活動のノウハウを年々蓄積していることも，本書の随所から読み取れる．

発掘には，「友の会」に入会して初めて参加できる．全国に組織されている「○○（地域名）野尻湖友の会」が発掘以外でもさまざまな集まりと活動をしている．これによって，個々バラバラに参加している市民が，仲間となり，共同の仕事がスムーズにできる素地がつくられている．本書でその経験談が生き生きとつづられている．

なお，本書に索引がないのが惜しまれる．

**（塚原弘昭）**

# CALENDAR

2018.6～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，（共）共催，（後）後援，（協）協賛．

## 2018年

### 6月　July

**○石油技術協会平成30年度春季講演会**
6月13日（水）～14日（木）
場所：朱鷺メッセ（新潟市）
http://www.japt.org/

**○科学的特性マップに関する対話型全国説明会**
主催：原子力発電環境整備機構（NUMO）／経済産業省資源エネルギー庁
6月16日（土）～8月1日（水）
場所：全国17会場（徳島，岡山，高知，千葉，岐阜，名古屋，札幌，青森，秋田，広島，松山，金沢，前橋，新潟，京都，福井，大津）
https://www.numo.or.jp/taiwa/2018/

**○日本古生物学会2018年年会**
6月22日（金）～24日（日）
場所：東北大学理学研究科理学部キャンパス
http://www.palaeo-soc-japan.jp/events/

**○Crossing New Frontiers - Tephra Hunt in Transylvania**
主　催：International Focus Group on Tephrochronology and Volcanology(INTAV)（テフラ・火山国際研究グループ）
6月24日（日）～29日（金）
場所：ルーマニア
http://www.bayceer.uni-bayreuth.de/intav2018/

**○地質学史懇話会**
6月24日（日）13:30～17:00
会場：北とぴあ　803会議室
講演予定者：眞島英壽氏・柴田陽一氏
連絡先：矢島道子 pxi02070@nifty.com

### 7月　July

**（後）「設計業務等標準積算基準書の解説」説明会（地質編）**
主催：全地連・経済調査会
7月2日（月）～8月31日（金）
場所：全国9地区（東京，高松，大阪，仙台，名古屋，札幌，広島，新潟，福岡)
https://seminar.zai-keicho.or.jp/seminar/detail/index/148/6

**（後）第55回アイソトープ・放射線研究発表会**
7月4日（水）～6日（金）
会場：東京大学弥生講堂（文京区弥生1-1-1）
https://www.jrias.or.jp/

**○第212回地質汚染イブニングセミナー**
7月27日（金）18:30～20:30
場所：北とぴあ901会議室
講師：山本義久（水循環基本法フォローアップ委員会幹事長）
テーマ：水循環基本法の誕生からフォローアップ委員会活動の現状
http://www.npo-geopol.or.jp

### 8月　August

**○AOM3;The Third Asian Ostracod Meeting**
8月6日（月）～10日（金）
会場：しいのき迎賓館（石川県金沢市）
http://www.ostracoda.net/aom3/

**（共）地震子どもサマースクール：火山島 伊豆大島のヒミツ**
8月7日（火）～8日（水）
募集対象：小学5年～高校生40名
参加申込締切：7月2日（月）
http://www.kodomoss.jp/ss/izuoshima/

**○第72回地学団体研究会総会（市原）**
8月17日（金）～19日（日）
会場：千葉県市原市市民会館
http://ichihara2018.com/

### 9月　September

**★日本地質学会第125年学術大会**
9月5日（水）～7日（金）
場所：北海道大学（札幌市）
http//www.geosociety.jp

**（共）2018年度日本地球化学会第65回年会**
9月11日（火）～13日（木）
場所：琉球大学・千原キャンパス
http://www.geochem.jp/meeting/index.html

**○日本鉱物科学会2018年年会**
9月19日（水）～21日（金）
会場：山形大学小白川キャンパス
http://jams.la.coocan.jp/index.html

**○第35回歴史地震研究会（大分大会）**
9月22日（土）～25日（火）
場所：ホルトホール大分（大分市金池南1-5-1）
http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/menu7.html

**○国際ゴンドワナ研究連合（IAGR）2018年会・第15回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム**
9月24日（月）～28日（金）
場所：中国西安市
主催：中国北西大学・IAGR
First circular: www.geocities.jp/gondwanainst/symposium/IAGR2018Onwards/FirstcircularIAGR2018

**○日本火山学会2018年度秋季大会**
9月26日（水）～28日（金）
会場：秋田大学（秋田県秋田市）
http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/index.html

### 11月　November

**○IGCP608「白亜紀アジアー西太平洋生態系」第6回国際研究集会**
11月15日（木）～16日（金）（研究集会：タイ・コンケーン）
11月12日（月）～14日（水）（プレ巡検：コラート高原のジュラ系－白亜系Khorat層群と恐竜化石群）
共催：タイ鉱物資源局，Sirindhorn博物館
http://igcp608.sci.ibaraki.ac.jp/

## 2019年

**○International Conference on Geoscience for Society (GeoSoc)**
2019年3月14日（木）～17日（日）
場所：バングラデッシュ・ダッカ市
締切：発表要旨2018年8月
https://www.data-box.jp/pdir/7085ba17d18d49959128fd842853976a

## 博物館だより

### 福井県立恐竜博物館

## 特別展　獣脚類：鳥に進化した肉食恐竜たち

場所：福井県立恐竜博物館３階　特別展示室
**期間：2018年7月13日（金）～ 10月14日（日）**（ただし，9月12日（水），26日（水），10月10日（水）は休館）
特別展観覧料：一般 1,200円，高校・大学生 800円，小・中学生 600円，70歳以上の方 500円（上記料金で常設展もご覧いただけます.）

肉食恐竜に代表される獣脚類は，鳥類という子孫を残し，現在まで生き残っています．本特別展では，イギリス国外初公開となるネオベナートルをはじめとする大型肉食恐竜はもちろんのこと，中国で発見された飛行能力を持つ獣脚類や，初期の鳥類など貴重な実物化石の数々を，最新の研究成果を交えて展示し，2億3千万年にわたる獣脚類の進化と繁栄の秘密に迫ります.

［関連イベント］
**●特別展記念講演会「恐竜から鳥をつくる：ネオベナートル，フクイラプトル，羽毛恐竜からわかること」**
日時：7月29日（日）14:00 ～ 15:30　聴講無料
講師：ステファン・ブルサッテ博士（イギリス・エディンバラ大学）
場所：福井県立恐竜博物館3階　講堂
**●特別展記念講演会「獣脚類恐竜の進化と鳥類の起源」**
日時：8月26日（日）14:00 ～ 15:30　聴講無料
講師：對比地孝亘　博士（東京大学）
場所：福井県立恐竜博物館３階　講堂
**●特別展関連　博物館セミナー「獣脚類の出現と繁栄」**
日時：8月19日（日）13:00 ～ 14:30
講師：当館　服部創紀　研究員
場所：福井県立恐竜博物館２階　研修室

ネオベナートルの全身骨格（イメージ）

事前申込みが必要です．詳しくは恐竜博物館ホームページをご覧ください.
**●担当者による展示解説**
日時：7月14日（土），8月25日（土），9月15日（土），10月14日（日）13:00 ～ 14:00
要事前申込．特別展観覧券が必要です．詳しくは恐竜博物館ホームページをご覧ください.

問い合わせ先：福井県立恐竜博物館
〒911-8601　福井県勝山市村岡町寺尾51-11
Tel：0779-88-0001（代表）
http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/
［開館時間］下記以外　9:00 ～ 17:00（入館は16:30まで）
7月14日（土）～ 8月31日（金），9月15日（土）～ 9月17日（月・祝），10月6日（土）～ 8日（月・祝）8:30 ～ 18:00（入館は17:30まで）

---

地質リーフレットたんけんシリーズ5

# 長瀞（ながとろ）たんけんマップ

## 荒川（あらかわ）が刻（きざ）んだ地球の窓（まど）をのぞいてみよう

「ジオパーク秩父」の
重要なジオサイトのひとつ
長瀞のたんけんマップができました

編集：日本地質学会長瀞たんけんマップ編集委員会
（高木秀雄・本間岳史・露木和男）
発行：一般社団法人日本地質学会
A2 版８折　両面フルカラー印刷

定価400円
（会員頒価300円）
※20部以上ご注文の場合は割引あり

購入希望の方は、学会事務局まで．e-mail：main@geosociety.jp　電話：03-5823-1150

# 札幌大会の情報

## 札幌大会巡検コースのご紹介

アウトリーチ巡検を含めた9コースと，実習プログラムが予定されています．各コース案内者，講師に見どころをまとめたPR画像を作成いただきましたので，ご紹介します（次頁以降）．参考にしていただき，是非お申込下さい．

すでに定員間近のコースもあります．参加希望の方はお早めにお申込下さい．大会HPに各コースの申込状況をお知らせしています．

また，地質学雑誌6月号より，巡検案内書を掲載しています（6月号は，D，F，Gコース）．あわせてご覧下さい．

**巡検参加申込締切：8月10日（金）**
**参加も申込は大会HPから**

## 宿泊予約もお早めに！

札幌大会（会期 9/5-9/7．巡検 9/8-9/9）は，観光シーズンの最盛期からは若干外れていますが，それでも初秋の北海道は観光客が多く，さらに中国など海外からの観光客も増加していて，宿が混みあうことが予測されます．お早めに宿を予約されることを強くお勧めいたします．

大会HPにも宿泊予約，航空券セットプランのご案内をリンクしています．ご参考にして下さい．
https://confit.atlas.jp/guide/event/geosocjp125/static/hotel

## 小さなEarth Scientistのつどい～第16回小，中，高校生徒「地学研究」発表会～　参加校募集中

小・中・高等学校の地学クラブの活動，および授業の中で児童・生徒が行った研究の発表を募集いたします．今大会は都合により平日開催となるため，昨年愛媛大会で採用された**デジタルポスター審査を取り入れることとします（当日表彰は行いません）**．会期後，参加証とともに，優秀な発表に対してはデジタル審査のうえ，「優秀賞」などの賞を授与いたします．またポスター毎に評価・コメント作成し後日お送りします．

詳しくは，大会HPまたは，ニュース誌4月号を参照して下さい．（本誌p.16 参加申込書をご参照下さい）

日時：2018年9月7日（金）10:00 ～ 17:00（コアタイムを16:00頃予定）

参加対象

・小，中，高校地学クラブならびに理科クラブ等の活動成果の発表
・小，中，高校の授業における研究成果の発表
・活動，研究内容は地学的なもの（地質や気象などの地球科学・環境科学，天文など）

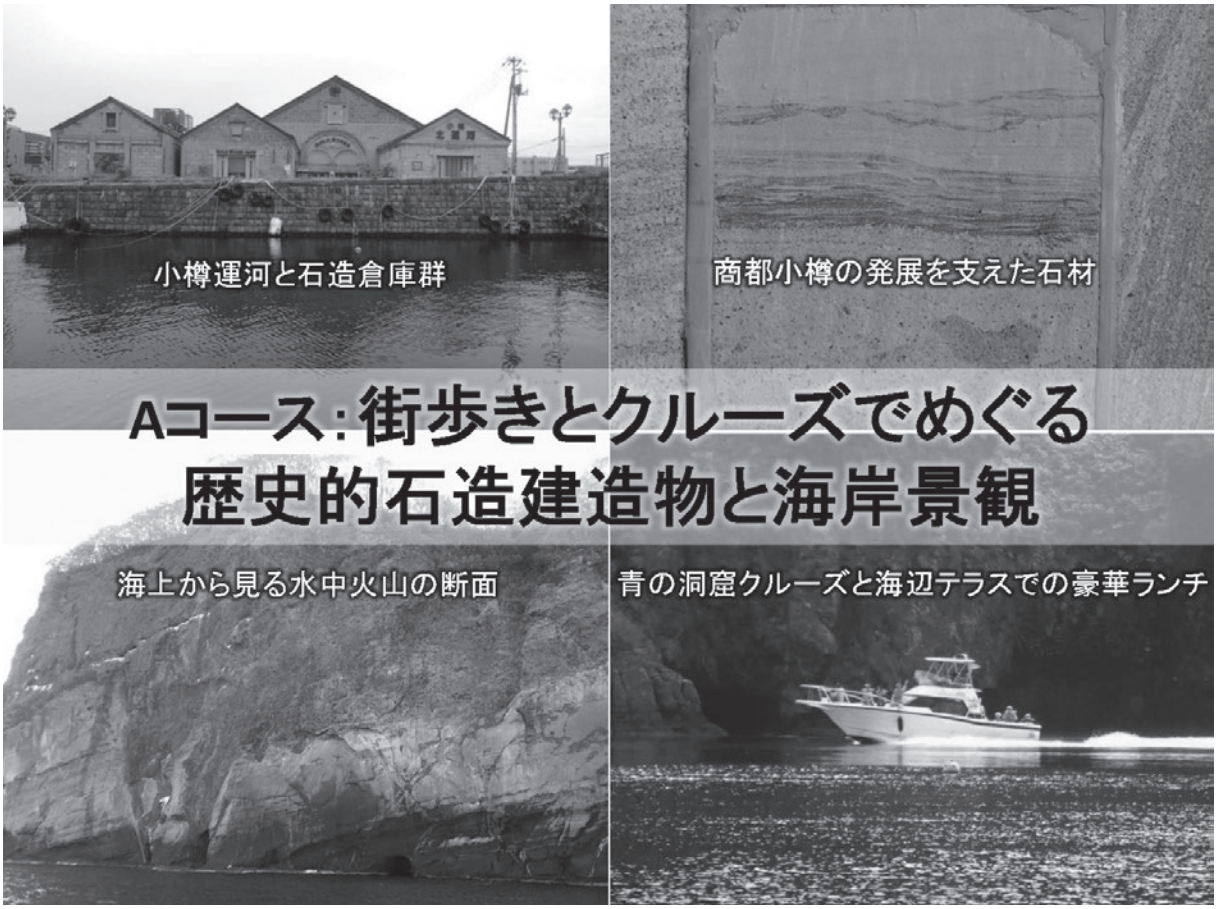
**参加申込締切：７月13日（金）**

## 大会へお子様をお連れになる予定の方へ

ご家族で学会に参加される会員で，大会期間中に保育施設のご利用を希望される方には，学会から保育料金の一部を補助いたします（対象：乳幼児～小学校就学前）．会場内には保育室を設けませんので，市内の施設のご利用をお願いいたします．大会HPで保育施設等の情報ご案内しています．
https://confit.atlas.jp/guide/event/geosocjp125/static/child

これらの施設は学会が推奨または利用を約束するものではありません．いずれの施設も予約は先着順になります．また小学生以上のお子様の学童保育を希望される方がおられましたら，別途学会事務局までご相談下さい．

問い合わせ先　e-mail:main@geosociety.jp　TEL:03-5823-1150




## Bコース：南西北海道，石狩低地帯におけるテフラ層序学：支笏洞爺火山地域の噴火履歴

最近15万年間の火山噴火の産物（テフラ）から、支笏洞爺火山地域の噴火履歴を読み解きます！

図1．巡検の主な観察地点

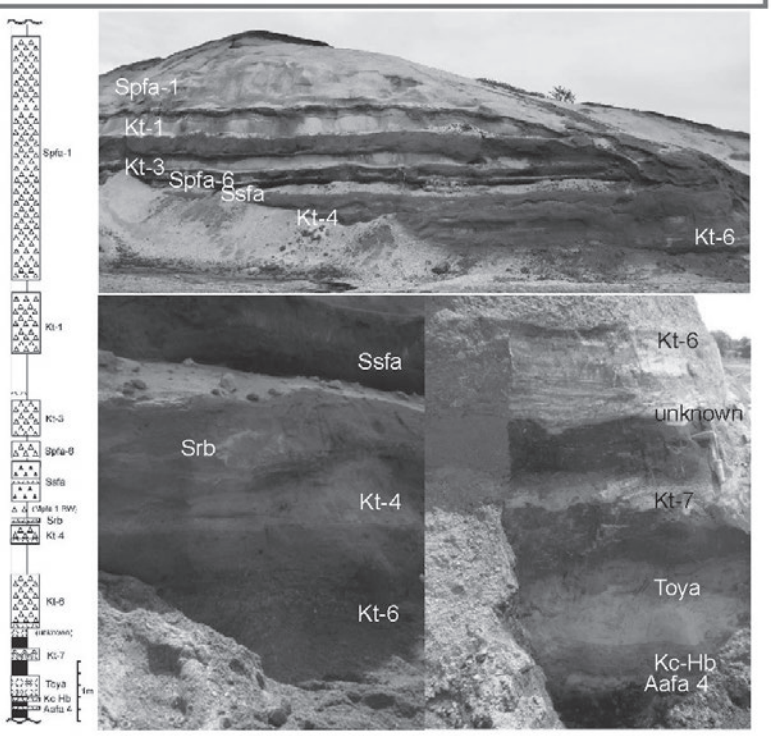



図2．Stop 6の露頭写真（右）と観察できるテフラ（柱状図）（左）。ここでは13万年前より新しいテフラが確認できる。

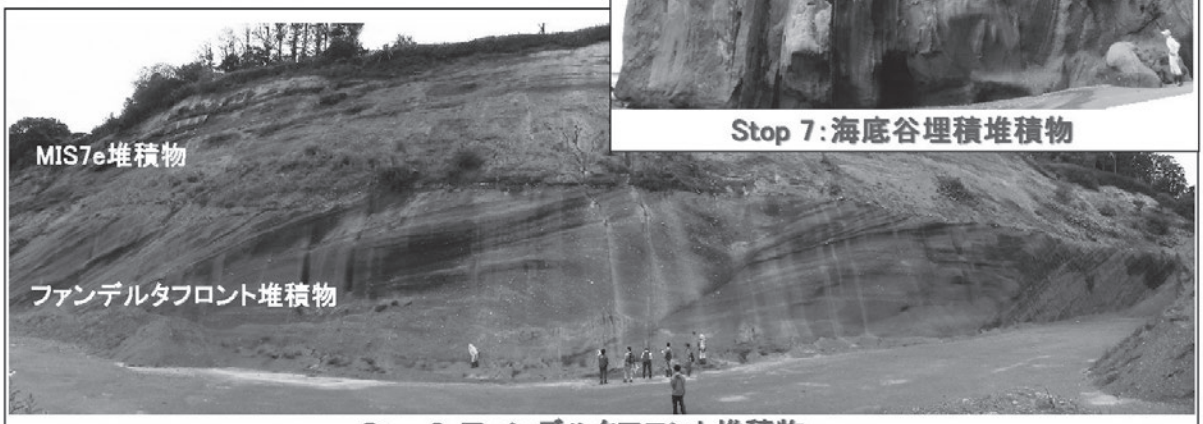
## Cコース：北海道日高海岸地域の中部～上部中新統 前縁盆地埋積物の堆積システムと石油地質

**加瀬善洋・川上源太郎（道総研）・高野　修（JAPEX）**

●日高海岸地域の中部～上部中新統を対象に，前縁盆地の埋積に伴う堆積システムの変化を観察．

●油徴や泥火山の見学も予定．

Stop 7：海底谷埋積堆積物




Stop 8：ファンデルタフロント堆積物

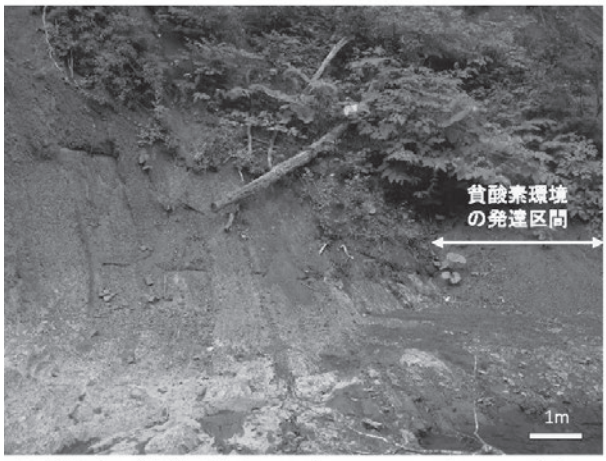
## Dコース：蝦夷層群下部～中部に記録された白亜紀中頃の温暖化と古環境変動

高嶋礼詩（東北大）・佐野晋一（富山大）・林圭一（道総研）

北大【7：30】→夕張市・白金川（OAE2）→占冠村・双珠別川（Aptianの石灰岩）→北大【19:00】

概　要

白亜紀中頃は地球史において温暖化が最も進行した時代の一つです。蝦夷層群に記録された2つの温暖化イベント，セノマニアン／チューロニアン境界付近（94-93Ma）の海洋無酸素事変2（OAE 2）と，後期アプチアンの礁性石灰岩を含むオリスとストローム層（113～112Ma）を見学します。




見学地点1：蝦夷層群のOAE 2（Cenomanian/Turonian）の露頭（夕張市白金川）

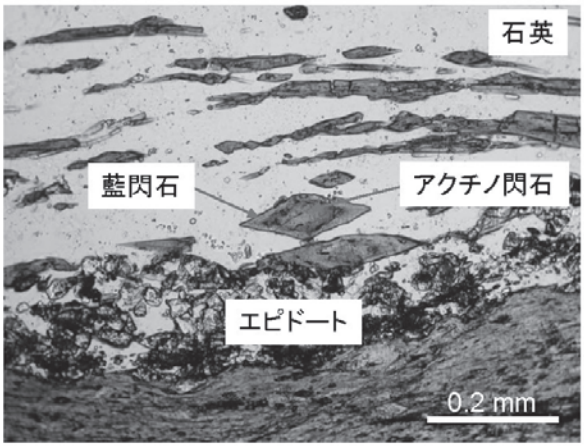
見学地点2：蝦夷層群の後期Aptianの石灰岩オリストリス（占冠村・双珠別川）

# Eコース：　神居古潭

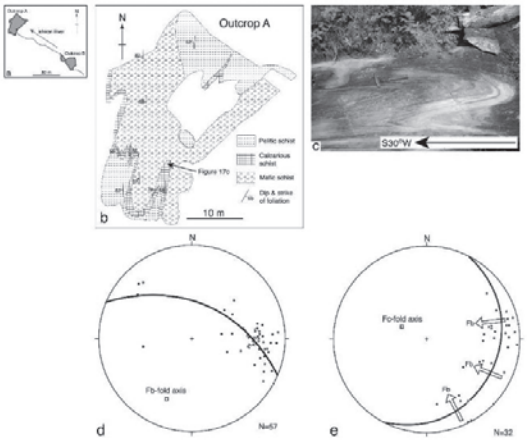
案内者：竹下 徹・辛ウォンジ（北大）・平島崇男（京大）・植田勇人（新潟大）

概　要

白亜紀後期に形成された典型的な高圧型変成岩である神居古潭変成岩と、その上位層である空知・蝦夷層群について、最近の研究（青色片岩の形成条件・P-T履歴と変成岩上昇時の流体活動）を紹介・議論します。




見学地点　4（江丹別峠）：　石英青色片岩の薄片写真。　角閃石はアクチノ閃石（薄緑）が藍閃石（青紫色）にオーバーグロースされているので、圧力増加時に成長したことがわかる。

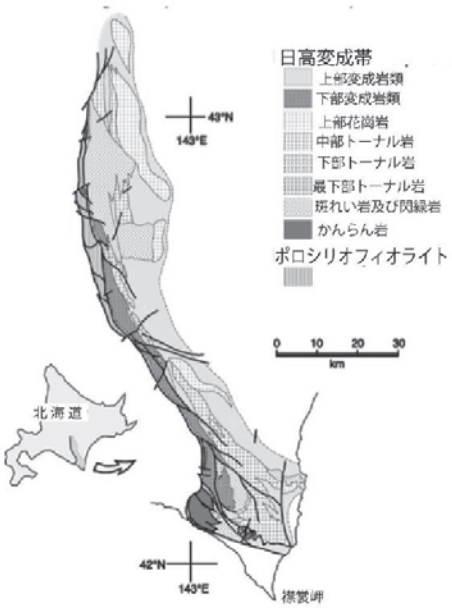



見学地点　5　（神居古潭峡谷）：
変成岩上昇時に形成された褶曲構造の解析。

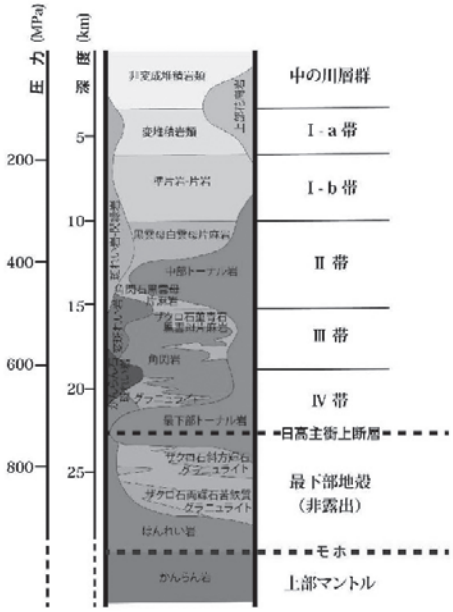
## Fコース　日高変成帯南部の深成変成岩類　日本地質学会（2018年，札幌）地質巡検

高橋　浩（産総研）・志村俊昭（山口大）・加藤聡美（アポイ岳ジオパークビジターセンター）

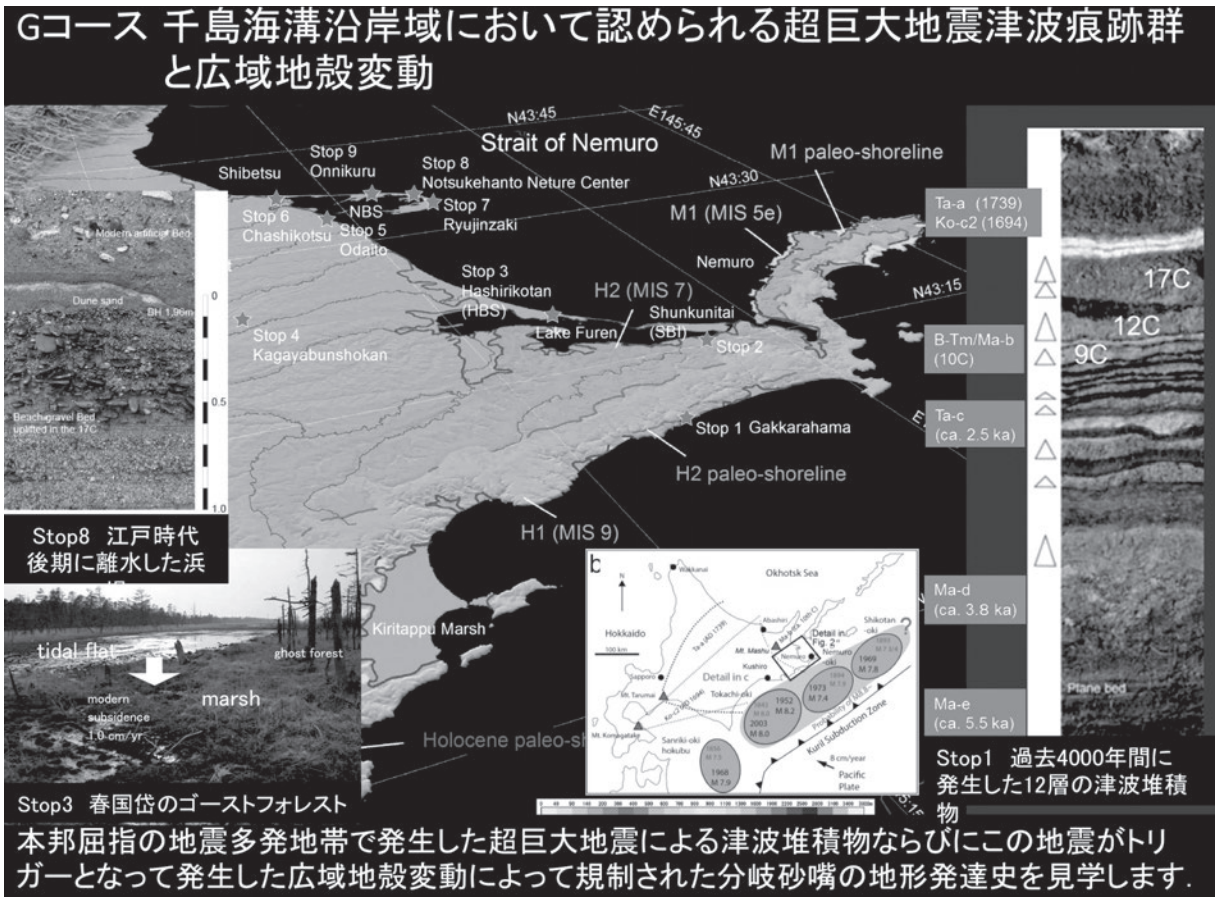
### 地表からマントルまで、大地の断面を間近に見る！




日高変成帯概略図.
小松ほか（1986）を一部改変.




日高変成帯模式柱状図.
小松ほか（1986）を一部改変.



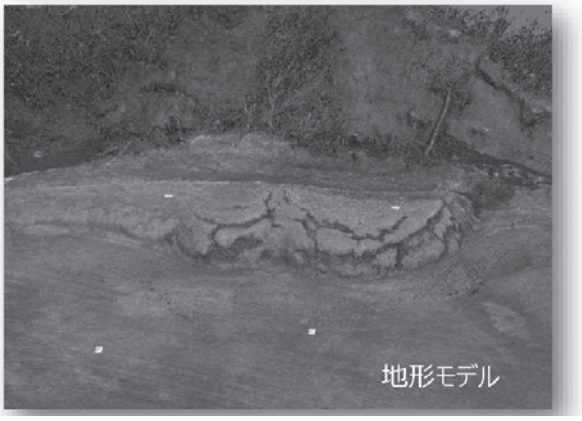

## 実習プログラム 無人航空機を利用した数値地表モデルの作製

### ➢コースの見所

- ドローンの操縦体験
  （法規制の関係上，超小型のトイドローンを使用）
- 高精度GPS測量実習
- 数値地形図の作製実習

### ➢コースの説明

ドローンで撮影した空撮画像から、高精度の数値地形図を作製する方法を実習を通して学びます。



街中ジオ散歩
in Sapporo
―開拓使時代の川―
明治30年頃のサクシコトニ川
明治15年の偕楽園
植物園に残った川の跡
明治43年頃の植物園の川
育
種
場
農学校農園
(旧第1官園)
官庫
偕楽園
勧業試験所
第二ブドウ園
本庁構内
停車場
牧草
水田
小麦
桑園
牧草庫
根松
桐
栗林
創

三笠ジオパーク
『さぁ、行こう！　一億年時間旅行へ！！』
9月8日(土)開催!!
100年前
炭鉱
これ何？
5千万年前
地層
なんで
タテなの？
1億年前
化石
どうして
あるの？
三笠ジオパーク
MIKASA GEOPARK
三笠ジオパーク推進協議会（三笠市役所商工観光課内）
大地との“つながり”“なぜ？”がわかる

## 地学教育のページ

### 日本地質学会第125年学術大会(札幌大会)
### 小さなEarth Scientistのつどい
### ～第16回　小，中，高校生徒「地学研究」発表会～　参加校募集

標記発表会への参加校を募集しています．参加応募の詳細は学会HP等をご覧ください．地学，理科クラブの研究活動の発表，そのほか，この１年間に授業の中で行った活動の報告，児童・生徒の研究レポートなど地学的な活動，研究内容であれば構いませんので，ぜひ応募してください． FAXで参加申し込みをする場合は以下の申込書をお使いください．メールの場合形式は問いませんので，同様の内容を記してお送りください．申し込みの際の参加生徒数，発表タイトル，発表概要は予定でも結構です．参加生徒には，参加証とともに，優秀な発表に対しては審査のうえ，「優秀賞」などの賞を授与いたします．

日本地質学会地学教育委員会（担当：三次）
（日本地質学会ホームページ　http://www.geosociety.jp）

---

**申込締切　2018年７月13日（金）**

日本地質学会地学教育委員会　行き　（Fax　03-5823-1156）

### 小さなEarth Scientistのつどい　～第16回小，中，高校生徒「地学研究」発表会～
### 参　加　申　込　書

| | |
|---|---|
| 学校名※<br>（クラブ名） | |
| 学校長名 | |
| 担当教員名※ | |
| 研究者名（連記） | （内，発表会参加生徒数　　名） |
| タイトル（仮題でも可）<br>※ | |
| 発表概要<br>（可能であれば簡単に） | |
| 担当者連絡先※ | 学校所在地　〒　　－<br>電話　　，Fax<br>メールアドレス |
| 机の使用※ | する　・　しない　（どちらかに○をつける） |
| 備考・連絡事項 | |

※については必ず記入してください．

# J-DESCコアスクール
# コア同位体分析コース2018　参加報告

佐々木聡史（修士2年）
島根大学大学院総合理工学研究科
総合理工学専攻地球資源環境学

**はじめに**

私は2018年3月12日から14日の3日間において高知コアセンターで行われた，J-DESC，高知コアセンターが共催するJ-DESCコアスクール「コア同位体分析コース2018」に参加した．J-DESCコアスクールは2007年から行われており，ほかにもコア解析基礎コース，微化石コース，ロギング基礎コース，古地磁気コースなどがある．私は，今までにコア解析基礎コースや微化石コースに参加したが，今回初めてコア同位体分析コースに参加した．本コースは「炭酸塩の酸素・炭素同位体比分析コース」と「炭酸塩のストロンチウム同位体比分析コース」の2つの講座に分かれて実習を行った．私は「炭酸塩の酸素・炭素同位体比分析コース」に参加し，私の他に京都大学，千葉大学，東京大学，東北大学から8名の学生が集まった．今回は私の参加した炭酸塩の酸素・炭素同位体比分析の実施内容を報告する．

**炭酸塩の酸素・炭素コースに参加して**

**3月12日（1日目）**

1日目は，初めに参加者の自己紹介を行い，コア同位体コースの共通レクチャーを受講した．ここでは，同位体の基礎知識や実習で用いる分析機器及びデータ解析のための統計処理について学んだ．その後，それぞれのコースに分かれて実習を行った（写真1）．

実習では今回測定を行う試料の採取から解析結果を出すまでの一連の流れを行った．試料は北西太平洋で採取された表層堆積サンプルに含まれる浮遊性有孔虫を分析に用いた．双眼実体顕微鏡で検眼し，1人1種約20個体を目標に4種の採取及び同定を行った（写真2）．その後，スライドガラスの上に並べ，浮遊性有孔虫の殻を割り，マイクロチューブに移し超音波洗浄で不純物を取り除く作業を行い，その後一晩乾燥を行った．今回試料として使用した浮遊性有孔虫とは単細胞の真核生物であり，網状仮足をもつことが特徴的で，石灰質の殻を形成する．例えるなら殻を持ったアメーバのような生物である．世界中の海洋に生息し，殻の生成に海水中の溶存物質を利用しており，同位体分析を行うことで，殻形成当時の$\delta^{18}O$（酸素同位体）と$\delta^{13}C$（炭素同位体）などを求めることができる．その結果を解析することによって当時の古水温や古環境を推察することができる環境指標として知られている．化石の同位体分析から古水温を求める研究には，二枚貝や頭足類，腕足類などが使用されている．また，応用として古水温以外に氷床量や深層水循環の推定を行うために使用されている．初日は，浮遊性有孔虫の採取及び種の同定が実習の作業の中心であった．参加者の中には浮遊性有孔虫というものを初めて見る人もいた．私は，微化石の貝形虫を使用した研究を専門として行っているので，浮遊性有孔虫を拾い出す作業は容易であった．しかし，種を同定する作業は難しく，短時間で4種を20個体ずつ拾い出すことは大変であった．なぜなら，私の専門である貝形虫の同定では，貝形虫の特徴でもある表面装飾（surface ornamentation）や殻の内側の筋肉痕（muscle scars）を見て同定を行うことが多い．しかし，浮遊性有孔虫の同定では螺旋側面，臍側面，口孔側面（spiral, umbilical, apertural edge sides）の3方向から殻の観察を行ない，主口孔の形態や位置，また殻室の巻き方，全体的な形態などを主に観察し判断する．同定を行う際に，その微化石の様々な特徴に焦点を当てて観察しなければならないと改めて感じた．

**3月13日（2日目）**

前日に作成した試料を100μg秤量し，反応容器に入れた．この際に国際標準試料（IAEA-603）の秤量も行った．国際標準試料とは同位体比が均質な試料であり，全世界で用いられている．それは，研究機関ごとの誤差を少なくするために共通試料として用いられている．国際標準試料と求めたい試料の偏差を求めることで，試料の測定値として使用する同位体比を求めることが出来る．また，国際標準試料を使用しているために他の研究との比較を行うことが容易である．

実習を行って，自分たちで作成した試料は，今回の分析に必要最低限の量であり，一部分析を行う上で定量に満たない試料や，作成したが秤量を行う際に落としてしまい計測できなくなった試料もあった．秤量することはあまり行ったことがなく，16個の分析試料を秤量するのに午前中を費やした．実験器具を用いて，試料を移し替える作業はとても神経を使う作業であり，今後自らの研究でも行う際は細心の注意を払って行うべきであると身をもって学んだ．

その後，安定同位体比質量分析計（IsoPrime）に試料を挿入し，同位体比の測定を行った．私はこの分析器を使用するのは初めてであったが，分析試料の処理をしっかり行えていれば，分析器に試料をセットしPCでの入力を済ませると自動で結果の値が導き出された．そのため分析試料を作成する過程の技術を身に着けることが出来れば，重要な研究結果を容易に得ることが出来ると考えられる．しかし，機械を動かすためのプログラミングも操作に慣れた人で1時間程度必要であり，初めての私たちにとっては，どの過程を現在PCに打ち込んでいるかを理解することで精一杯であった．

午後からは，測定原理を理解するために，炭酸カルシウムか

**写真1（左）　共通レクチャー（同位体について）**
**写真2（右）　浮遊性有孔虫の採取・同定**

ら二酸化炭素ガスを分離する実験も行った．まず初めに，炭酸カルシウムを二股試験管に入れ，もう一方にリン酸を入れる．その後密閉し反応させ，水と二酸化炭素を発生させた．次に，融点の違いを利用して二酸化炭素のみ取り出すために，-198℃の液体窒素で水と二酸化炭素をトラップし，先ほどトラップした部分の温度を-70℃に調整し，水のみトラップさせ，もう一つのトラップ部分を-198℃に調整し，二酸化炭素を取り出した．この方法を使用し二酸化炭素ガスを精製する．この実習では，二酸化炭素を取り出すまでの手順が多く，コックの開ける順番などを間違えそうになったメンバーもいた．

**3月14日（3日目）**

最終日は，測定したデータを補正し古水温を求めた．古水温を求める方法には測定値とは別に海水の酸素同位体比と塩分の情報が必要である．また，データ補正を行う際にはPDBなどの国際標準物質を用いて導き出した補正値と今回の試料を比較し，試料の正式な値を導き出した．今回は5つの国際標準試料を測定しデータ補正を行った後に古水温を求めた．最後に今回の実習の総決算として，グループごとに実習内容と結果報告を含めた発表を行った．

$\delta^{18}$Oや$\delta^{13}$Cのデータ補正や，結果の考察を行ったところ，誤差が少なく一定の値を得られた種もいたが，一方で同じ種を用いた測定結果において，誤差の振れ幅が大きい結果も得られた．しかし，全体的にすべての種の結果を並べたグラフを見て考察すると，表層種，中層種，深層種という三つのグループに分けることが出来た．この結果は，浮遊性有孔虫の生息水深と調和的な結果であった．同じ種でも大きな誤差が生じた原因としては，同じ表層堆積サンプルから採取した有孔虫であったが，古い年代の有孔虫も混入していることや共生藻の有無が何らかの影響を及ぼしたのではないかと推察できた．これも実際に実験を行わなければ理解することが出来なかった一つの事実であり，このような事象も実習に参加して得られた大きな成果であったと考える．

**まとめ**

今回の実習を通して，試料作成から分析，データ整理まで4人1組のグループで行う事で，他のメンバーの意見を聞き，議論を行いながら実習を進められたことはとても良い経験になった（写真3）．

同位体分析は，私の専門である貝形虫の研究にも使用されており，私も今回使用した分析機器を使用する機会があると思うので，今回学んだことを今後に活かしたいと考えている．また，

**写真3　集合写真**

他大学の学生と同位体コースの内容や，学校内での話，それぞれの行う研究の話をしたことがとても良い交流の時間となった．今後様々な学会で会える日が今から楽しみである．今回参加した学生の専門は，微化石以外に，大型化石，堆積学，鉱物学，同位体など多岐にわたる．本スクールは来年も開催されると思うので，同位体の分析に興味がある人は専門が異なったとしてもぜひ参加してみてほしい！一流の研究者の方々が直接指導してくださり，質問や疑問点なども親切に対応してくださった．私のように今後同位体分析を使用しようか迷っていたら間違いなく参加することをお勧めする．

最後になりましたが，今回のJ-DESCコアスクール・コア同位体分析コースの開催・運営に尽力してくださった，責任者の阿波根直一先生，池原実先生，また，講師を務めてくださった先生方，コアスクールを企画してくださった様々なスタッフの皆様，高知コアセンターの方々，非常に有意義な経験の場を与えていただいたので，この場をお借りいたしまして心より感謝申し上げます．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名で行っています．原稿は5000字以内，図・写真３点以内を目安に，e- mailでいただければ幸いです．

**16nd204l@vc.ibaraki.ac.jp　羽田裕貴（茨城大）**
**manto.yamada@gmail.com　山田眞嵩（北大）**
**smuto@eps.s.u-tokyo.ac.jp　武藤　俊（東京大）**
**716o.nonn@gmail.com　大山　望（九州大）**

# 学　会　記　事

## 2017年度第3回理事会議事録

日　時　2018年4月7日（土）　14:00 ～ 17:00
会　場　北とぴあ　901会議室
（東京都北区王子1-11-1）
出席役員　理事（29名）：天野一男　安藤寿男　市川八州夫　緒方信一　岡田　誠　笠間友博　狩野彰宏　亀尾浩司　川端清司　小宮　剛　斎藤　眞　佐々木和彦　菖蒲幸男　杉田律子　田村嘉之　辻森樹　内藤一樹　中澤 努　仲谷英夫　西弘嗣　楡井　久　平田大二　保柳康一　松田達生　松田博貴　三田村宗樹　向山栄　矢島道子　渡部芳夫
監　事（2名）：藤本光一郎　山本正司
事務局：橋辺菊恵　堀内昭子
欠席役員　理事（15名）：有馬　眞　井龍康文　大藤　茂　川辺文久　清川昌一　坂口有人　澤口　隆　沢田　健　竹下 徹　田村芳彦　奈良正和　廣木義久　福冨幹男　星 博幸　山田泰広
＊成立要件：理事総数44名の過半数23名．本日の出席者29名で本理事会は成立．
＊議決：出席者の過半数 15 名

定刻に開会の後，市川理事と笠間理事を書記に指名し，渡部会長から開催にあたっての挨拶があった後，議事に入った．

**報告事項**

1．執行理事会報告（斎藤常務理事）
・2017年度第7 ～ 9回執行理事会についての概要報告があった．
・次期高等学校学習指導要領案に対するパブリックコメント，平成30大学入試センター試験地学関連科目の意見書については別途資料が配られ報告があった．
・関連して小宮理事より地球惑星科学分野新規大型研究計画の創出に関する学会マスタープラン2件ついてヒアリング結果等の報告があった．
・会員動向：前回理事会以降に逝去された名誉会員2名，正会員2名の氏名が報告され，黙祷をささげた．

2．理事及び委員会等報告
1）行事委員会（岡田理事）
・札幌大会について，特に平日行われる小さなESの運営方法について報告があった．募集は例年通りとし，近隣校に声掛けする予定である．審査は後日審査委員間のメールにて実施．
・125周年記念国際シンポジウムについて，講演予定者の進捗について報告があった．
2）地質学雑誌編集委員会（中澤理事）
・125周年記念特集号の状況について報告があった．
3）125周年記念事業実行委員会（矢島理事）
・今後の工程表および5月18日開催の記念講演会，記念式典，祝賀会についての報告があり，会員に関心を持ってもらうよう，行事への出席及び寄付についての周知依頼があった．
4）ジオパーク支援委員会（天野理事）
・5月19日にミニシンポジウム「日本地質学会のジオパークへの学術的貢献」開催の報告があった．非会員可であるかとの質問があり，JGNを通じて広報中であり，非会員参加可能で特に各ジオパークの専門委員に出席していただきたいとの回答があった．
5）子どもゆめ基金の助成を受けたWEB教材の公開について(小宮理事)
・WEB教材開発についてパンフレットで説明があり，助成の金額内で完成させることができたこと，3年間の普及活動および実績報告が義務付けられているため普及活動への協力かた周知が必要である旨の報告があった．なお，普及活動に対する費用の助成はないとのことであった．
6）その他
・報告事項なし

**審議事項**

1．理事会規則の変更
・斎藤常務理事より会長，副会長に事故ある場合の欠員補充に関する改正案が提案された．会長が行方不明，意識不明等の場合の扱いについて質問があり，死去以外の場合は体制変更の必要なしとの回答があった．また，学会の登記に関する質問があったが，会長に限らず理事が逝去した場合には1週間以内の死亡届が必要，また，会長死去に伴う代表理事変更の場合も同様に届が必要であるが，当学会は理事会設置の法人であるので，大きな問題とはならないと回答があった．異議なく承認された．

2．総会議案の決定
・5月19日開催の第10回総会の議事次第案について提案があり，異議なく承認された．

3．2018年度事業計画
・渡部会長より2018年度事業計画骨子について提案があり，異議なく承認された．

4．2018年度予算案
・西理事より2018年度収支予算案についての提案があった．今年度は普及科研費130万円を獲得できなかったため普及事業支出を増やしたこと，125周年事業最終年次のため引当金の取り崩しが増えていることなどの説明の後，異議なく承認された．

5．各賞選考について（各賞選考委員委員長星理事代理　保柳理事）
・星委員長出張のため保柳理事が提案を行った．各賞の受賞者の選考について，異議なく承認された．なお，地質学会功労賞については申請がなかった．また，国際賞は毎年1件と定められているので，候補者にふさわしいと思われる方が複数推薦された場合の選考が難しい，今後はこのような場合の対応が必要，との申し送り事項の説明がなされた．これについては執行理事会で検討することとなった．各賞選考委員会の委員の選考方法についての質問があり，選考委員は理事会の場で選考し，分野のバランスも考慮し，選考に際しては候補者との利益相反の問題もクリアして審議を行っているという説明があった．

6．名誉会員候補者の選考について（名誉会員推薦委員会委員長　松田副会長）
・松田副会長より，候補者として3名の推薦があったこと，名誉会員推薦委員会は徳岡隆夫会員，坂巻幸雄会員，寺岡易司会員の3名全員を名誉会員候補者として総会に推挙する旨の提案があり，異議なく承認された．なお，業績の記述に不統一感があり，記述内容不明な点もあるとの意見があったが，まだ時間があるので表現は統一するとの回答があった．また，業績データについては推薦時の必須ではないが，後で収集する場合もあるので，初めから推薦文に付けるように申し送ることとした．

7．125周年記念式典次第並びに9月の記念シンポジウムについて
・5月18日125周年記念式典・祝賀会の次第については矢島理事より提案が，また，札幌大会での125周年記念国際シンポジウムについては岡田理事より当日の予定および世話人の人選，海外交流学会よりの招聘予算について提案があり，異議なく承認された．

その他
・地質学雑誌のあり方に関しての自由討論：斎藤常務理事より今後の地質学雑誌のあり方について，タスクフォース委員会のアンケート実施予定に関する説明があり，理事会で自由意見を求められた．出席理事より，雑誌電子化に関する議論も踏まえたアンケートの具体的な実施方法等について意見が述べられた．

以上の議事終了後，山本監事と藤本監事より，理事の業務執行と理事会の運営が滞りなく行われている旨の意見が述べられた後，松田副会長の挨拶により閉会した．

以上

2017年10月25日
一般社団法人日本地質学会
理事会議長　　向山　栄
理事会副議長　佐々木和彦
代表理事：会長　渡部芳夫
以下出席理事氏名（省略）

## 2017年度第8回執行理事会議事録

期　日：2018年3月3日（土）13:00 ～ 17：00
場　所：地質学会事務局
出席者：渡部会長　松田副会長　齋藤常務理事　安藤　緒方　岡田　小宮　坂口　杉田　田村　内藤　中澤　平田　廣木（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：辻森　西　山田
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者14名，委任状3名，合計17名の出席.
＊前回議事録の承認

### Ⅰ　審議事項

1．Island Arcにおける日本語要旨について
日本語要旨の提出を必須としないこととするが，投稿は推奨する．この方針でWiley Online Library，投稿規程の変更を検討する．日本地質学会NEWSでの掲載の仕方については，再度検討する．

2．日本ジオパーク委員会調査運営部会員の推薦依頼・組織改編について説明の後，調査運営部会に執行理事（ジオパーク担当）から1名と複数名を推薦することを承認.
・世界ジオパーク候補のUGGPへの推薦に際し学術的価値についての諮問をする機関（日本ジオパーク地球科学評価機構）の新設が予定されているが，その事務局を地質学会内に設置する要請については，引受け可能の返事をする.

3．次期，高等学校学習指導要領案に対するパブリックコメント（3/15文科省締切）
廣木理事が原案を作成し，メール審議する.

4．会長，副会長に欠員が出た場合の規則整備について
・山本監事から返答：定款変更は不要，学会は理事会設置法人なので，理事会規則の追加変更で可，との返事を受けた.
・理事会規則の改正案の原案を再検討し，一部修正を加え確定条文とし，理事会に提案することとした.

5．4月理事会の議案について
・理事会規則の変更
・総会議案の決定・2018年度事業計画
・2018年度予算案
・名誉会員候補者選考について
・125周年記念式典並びに9月の記念シンポジウムについて

6．全国の地球科学系若手の動向調査について
全国20大学地球科学系学科長会議（2016年度までは19大学）が情報をある程度集約しており，それ以外の大学からの情報情報収集を地質学会が担うことで，全国の若手の動向調査を行うとの提案．広報担当理事（坂口）が具体的な方法を検討することを承認した.

7．地質学雑誌のあり方についてのアンケートについて
タスクフォース委員会の斎藤理事から出された表記アンケートの趣旨について問題点を検討し，タスクフォース委員会で再検討することとした.

### Ⅱ　報告事項

1．全体的報告
1）選挙管理委員会からの理事選挙結果報告
2）地球惑星科学分野新規大型研究計画の創出について
応募締め切りに遅れたが，提出することにする．今後も議論を継続する

2．運営財政部会：総務委員会（緒方・西）
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
1）三浦半島活断層調査会の「城ケ島観察会」(5/20）の後援依頼を承諾した.
2）筑波大学2018年第13回「科学の芽賞」後援名義使用依頼を承認した.
3）コスモ国際賞選考委員会より同賞の推薦募集案内，推薦〆切4/13，学会〆切3/30←HP，Geo-flash，Newsに掲載
4）平成30年度の東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成候補者推薦募集案内，推薦〆切10/10，学会〆切は8月末日←HP，Geo-flash，Newsに掲載．平成29年度受賞者決定通知あり，地質，会員関係者の受賞なし.
5）日本学術振興会賞候補者推薦募集案内，受付期間　4/6-4/11，学会〆切3/23←HP，Geo-flash，Newsに掲載
6）財）国土地理協会2018年研究助成の募集案内，受付期間　4/2-4/20←HP，Geo-flash，Newsに掲載
＜会員＞
1．今月の入会者（11名）
・2018年度から入会
正会員（2名）：入佐友弥，加藤太一
正（院生割引）会員（5名）：川本一樹，岩崎諒仁，石山恭行，北垣直貴，有山菜々子
入会年度確認中（4名）：正会員（4名）：田中博春，東　佳生，望月貴史，池田啓貴

2．今月の退会者
正会員（1名）松本　尚

3．逝去者　なし

4．2017年12月末日会員数
賛助：28，名誉：55，正会員：3654（正会員：3455，正（院割）会員：184，正（学部割）会員：15）合計 3737（昨年比-60）
＜会計＞
・次年度予算案の素案を提示し，4月理事会までに確定案を策定する.

3．広報部会：広報委員会（坂口・小宮・内藤）
・2/23　フォトコン審査会を開催し，以下の様に選出した.
最優秀賞1，125周年記念賞1，優秀賞2，ジオパーク賞1，日本地質学会長賞1，ジオ鉄賞1，スマホ賞1，入選5，佳作（賞金なし）12
・授賞写真は，5/18の記念式典および5/19の総会で展示予定，表彰は19日の午前中に実施.
・今年の銀座プロムナードでの展示期間は4/28-5/12に決定.

4．学術研究部会（岡田・山田)
（1）行事委員会（岡田）
1）札幌大会関係
・大会業務委託は近畿日本ツーリスト北海道に決定．2/26に担当者が上京し，これまでの業務内容と齟齬がないよう確認した．なお，あらためて業務委託について覚書を担当者から送られる予定．契約書となると社内手続きが簡単ではないので，覚書がよいとのこと．また，展示ブース代および広告料についての値上げ，賛助会員の無料扱いは割引価格とする，などのアドバイスをうけた.
・小さなアースサイエンティストポスター発表会は9月7日（金）実施で調整する
・展示ブース代の値上げ（一般１小間5.4万→8万；賛助会員　無料→3万）
・懇親会はキリンビール園を検討中
（2）国際交流委員会（井龍）
・125周年記念シンポジウムの招聘者候補を概ね検討した．シンポ開催日は9月6日．日本の発表者選考は行事委員会で検討する.
・招聘者のおもてなし等についても国際交流委員会・行事委員会を中心に検討.
・招聘者の，旅費は9/6を中心に4泊5日分，往復交通費とする（同伴者は除く）．費用負担は125の予算と国際交流費から賄う.
（3）JIS，標準担当（中澤）

5．編集出版部会（中澤・田村・小宮）
（1）地質学雑誌編集委員会　(山路編集委員長，中澤担当)
1）編集状況報告（2月25日現在）.
・2018年投稿論文：15編［内訳］総説1（和文1）・論説6（和文6）・報告4（和文3，英文1）・巡検案内4
・査読中：44/受理済み：19（うち特集号12）
・124巻2月号（通常号）：論説5（56ページ，3/1発送済）
・124巻3月号（通常号）：総説1，論説2，報告1，講座1（50-60ページ，入稿中）
・124巻4月号（125特集号？）：「水蒸気噴火の地質学的研究の進展」
2）125周年記念特集号状況（掲載予定順）
（2）アイランドアーク編集委員会（田村）
1）編集・特集号・投稿状況等の報告
2）プレプリント･サーバーに投稿された原稿に関する扱いについて検討したが，結論を得られず継続審議とした．地質学雑誌との兼ね合いもあるので，当面，投稿規程は変更しないことにする.
（3）企画出版委員会（小宮）
・ゆめ基金最終段階の進捗状況．3/31終了で作業中．子どもを対象のモニター会を実施する予定.
・「伊豆大島と三原山」のリーフレット探検シリーズ原稿については，再々修正の原稿を提出していただいたが，再々校閲の結果不採択となった．なお，これについては現状打開のために，企画出版委員会，著者及び協力者との話合いをもってはどうかと

のことで，その方向で調整することとした．

・リーフレット企画出版委員会委員長の高清水会員より任期満了の今期にて委員を退任したい旨の通知を受けた．次期委員の補充と委員長の選出が必要．現在の委員：高清水康博（新潟大教育）・伊藤孝（茨城大教育）・大木淳一（千葉県博）．これについては，高清水氏の退任を了承し，新期委員として内藤氏（産総研）を推薦することとした．

・125周年記念事業として予算段階で，近畿支部からリーフレットの企画があるとの報告をうけている．この取扱いは，企画申請，査読等については通常のリーフレットと同様とするか，要検討．記念出版になるのであまり時間はかけられない．できたものは近畿支部としてある程度無料配布で利用したい，残りは学会から通常のリーフレットと同様に販売してもらうつもり，とのこと．これを検討し，まずは通常のリーフレットとして企画申請をしてもらうことにした．

6．社会貢献部会（平田・杉田・廣木・辻森）

・街中ジオ散歩in Kawasakiについては川崎市教育委員会の後援承認を得て準備をすすめている．

7．ジオパーク支援委員会（平田）

・JGNの斎藤事務局長から天野委員長にJGCの組織改編および調査運営部会員の推薦依頼について説明があった．

8．地学オリンピック支援委員会（平田）

・3/24（土）に委員会を開催予定．

9．県の石支援委員会（辻森）

・出版については井龍理事が現在奮闘，努力中．発行時期については現状では未定．

10．125周年記念事業実行委員会（矢島）

1）経過報告，工程表の確認

2）矢島，佐々木両理事の報告をうけ，次の点について検討した．

・記念国際シンポジウム「社会と地質学」（9月6日（木）北海道大学）の準備について，行事委員会が主体となって国際交流委員会の協力のもとに進めることを確認した．

・「県の石」出版の状況がまだはっきりしないので，現状の確認をし，9月の札幌大会に間に合うよう尽力する．

・地質学雑誌125周年記念特集号の発行状況と今後の見通し（記念特集号の期間～2019.3）

以上

2018年　4月　7日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会　長（代表理事）渡部芳夫

署名人 執行理事　斎藤 眞

---

## 2017年度第9回執行理事会議事録

期　日：2018年4月7日（土）10:30～12：30

場　所：北とぴあ901会議室

出席者：渡部会長　松田副会長　齋藤常務理事　安藤　緒方　岡田　小宮　杉田　辻森　内藤　中澤　西　平田　向山理事会議長　佐々木副議長　（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：坂口　田村　廣木　山田

＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者13名，委任状4名，合計17名の出席．

＊前回議事録を承認

### Ⅰ　審議事項

1．地質学雑誌のあり方についてのアンケートについて（タスクフォース委員会）

アンケートの実施は承認したが，趣旨文や書式をさらに検討して実施するよう，意見が多数出た．したがって，現時点では理事会の審議事項とはせず，報告の中での紹介に留めることとした．

2．理事会議事確認

向山議長および佐々木副議長とともに議事の確認をした．

### Ⅱ　報告事項

1．全体的報告

1）JGCの要請により調査運営部会委員として地質学会より利光誠一会員を推薦．このほか，公募枠へ4名を推薦したが，先方の連絡が遅く期日後になったことと，ジオパークについてより経験のある方を望む，ということで受け入れられなかった．

2）地球惑星科学分野新規大型研究計画の創出について，学会から2件のマスタープランを応募

・「中央構造線掘削」代表者　高木秀雄・宮崎一博・斎藤　眞・大橋聖和

・「第5期科学技術基本計画」の目指す基本理念「知の資産の持続的創出」に基づき，全地球試料（地球科学系岩石・化石試料と生物科学系剥製・標本試料）のアーカイブ化とキュレーション施設の構築　代表者小宮　剛

・ヒアリングにおいて，全地球試料のアーカイブ化とキュレーションについては，やや期待感のある反応であったが，広範な分野の協力体制も必要であることから，今後も動向をサーチしながら対応していく．

3）次期高等学校学習指導要領案に対するパブリックコメントについて

廣木理事の原案をメール審議のうえ提出した．また，同様に平成30年度大学入試センター試験の地学科目に関する意見書を提出した．（HPに掲載）

2．運営財政部会：総務委員会（緒方・西）

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞

1）日本原子力学会よりシンポジウム「断層リスクに向き合う原子力安全のアプローチ」（5/31開催）の後援依頼を承認．

2）ジオ神奈川（代表　蟹江康光）より，地質の日のイベント「城ケ島の高潮・大正関東地震津波・地盤隆起」の後援依頼を承認．

3）全地連および経済調査会主催の「設計業務等標準積算基準書の解説」説明会（地質編）に対する後援依頼を承認．

4）藤原科学財団より藤原セミナーの募集：2019/1-2020/12に開催され，自然科学の分野で基礎的なテーマのものとし，1件1200万円以内2件，応募申請〆切7/31

5）山田科学財団より，国際集会開催(2021年度開催分)助成，規模150名以内，助成金800万円以内，募集期間2018/4/1～2019/2/22

6）学術振興会より，「育志賞」受賞候補者の推薦依頼，大学院博士課程の学生，34歳未満．受付6/4/-8，17:00まで．

7）阿蘇学会（理事長　谷口功）設立記念フォーラム（4/14）への招待→松田副会長が出席

8）新潟大学学術情報部旭町学術資料展示館より，2017年7月の後援事業の礼状

9）資源素材学会より新任会長（槌田直行氏）・副会長（尾原祐三氏，月橋文孝氏）の挨拶状

10）ダイヤコンサルタント（株）新役員体制のご挨拶状，社長（野口泰彦氏変わらず）

11）千葉大環境リモートセンシング研究センター長の交代ご挨拶（安岡善文氏→久世宏明氏）

＜会員＞

1．今月の入会者（15名）

正会員（4名）：林信太郎，本間達朗，加藤悠爾，浜田康史

正（院生割引）会員（10名）：　近藤美左紀，加藤大地，中西　諒，松原克弥，平井康裕，桑野太輔，清水拓貴，向里祐哉，張　天逸，丸茂恭徳

2．今月の退会者

2017年度末退会者（85名），除籍者（78名）

3．逝去者　なし

4．2018年3月末日会員数

賛助：28，名誉：55，正会員：3491（正会員：3304，正（院割）会員：172，正（学部割）会員：15）合計 3574　（昨年比 -69）

5．2018年度永年（50年）会員：赤羽貞幸　赤松守雄　磯部一洋　井上大栄　江藤哲人　岡田篤正　岡田賢樹　奥村公男　小池春夫*　小井戸由光　坂本隆彦　柴田次夫　嶋本利彦　玉生志郎　西田民雄　牧野泰彦　町田瑞男　村松敏雄*　山内靖喜*　山岸勝治　山野井徹　以上21名　＊リストアップから漏れていた方（1～5年遅れ）

＜会計＞

・2018年度予算案：125周年の事業があるので，数字的には昨年度予算より収支ともに約400万円ほど上回っている．収入は引当金の取り崩しによるところが大きい．

・地質情報展の科研費が今年度は不採択となった．そのためとりあえず普及事業費で

賄えるように予算措置をした.
3．広報部会：広報委員会（坂口・小宮・内藤）
特になし
4．学術研究部会（岡田・山田)
（1）行事委員会（岡田）
・札幌大会関係および125周年記念シンポジウムについて
・125周年記念シンポジウム準備状況の報告：講演予定者への招致状況を確認し，シンポジウム世話人を検討中.
（2）国際交流委員会（井龍）
・125周年記念シンポジウムの講演者については交流学会及びキーパーソンとの間で交渉を進めている.
（3）JIS，標準担当（中澤）
5．編集出版部会（中澤・田村・小宮）
（1）地質学雑誌編集委員会（山路編集委員長，中澤担当）
1）編集状況報告（4月5日現在）
・2018年投稿論文：39編［内訳］総説10（和文10）・論説16（和文16）・ノート1（和文）・報告6（和文5，英文1）・巡検案内6
・査読中：58，受理済み：22（うち特集号9）
・編集中の125周年特集号以外の特集号（順調に編集作業中）
①「富山トラフと周辺部の堆積作用と後背テクトニクス」世話人：高野　修ほか
②「三次元地質モデル研究の新展開：その2」世話人：木村克己ほか
・124巻3月号（通常号）：総説1，論説2，報告1，講座1（75ページ，4/2発送）
・124巻4月号（125特集号）：「水蒸気噴火の地質学的研究の進展」約80ページ，校正中
2）125周年記念特集号状況（掲載予定一覧，年内124巻中に完結を前提として編集中）
（2）アイランドアーク編集委員会　(田村)
1）編集・特集号・投稿状況等の報告書を確認.
（3）企画出版委員会（小宮）
・子どもゆめ基金助成，WEB教材の開発終了と公開について：3/30に実績報告書提出．Websiteが閲覧可能となった．今後（～3年）の普及活動方針および内容の更新について確認した．小宮理事によるJpGUでのポスター発表で普及宣伝を予定.
6．社会貢献部会（平田・杉田・廣木・辻森）
・2018年「地質の日」記念・日本地質学会125周年記念事業：街中ジオ散歩in Kawasaki「多摩丘陵の100万年を歩く」徒歩見学会　募集・準備状況報告
7．地質技術者教育委員会（代理天野）
・平成29年度「土質・地質技術者生涯学習協議会（CPD協議会）」（3/8開催）に出席．2018年度CPD会費について，6万円を8万円に値上げするとのこと.
8．ジオパーク支援委員会（平田）
・5/19（土）ミニシンポジウム「日本地質学会のジオパークへの学術的貢献」を開催することとした．札幌大会でもレギュラーセッション開催予定.
9．地学オリンピック支援委員会（平田）
・2018年度国際地学オリンピック大会（タイ）への準備状況報告
10．県の石支援委員会（辻森）
・編集進捗状況とくになし．努力中.

以上

2018年5月19日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会　長（代表理事）渡部芳夫
署名人 執行理事　斎藤 眞

---

表紙紹介

## ハワイ島，キラウエア火山2018年噴火の空撮写真

写真・解説：**古川邦之**（愛知大学），**齋藤武士**（信州大学）
**新村太郎**（熊本学園大学），**三好雅也**（福井大学）
**金丸龍夫**（日本大学）

**（上）ハワイ島東部，カポホ湾への溶岩オーシャンエントリー：Ocean entry of the lava flow at Kapoho Bay in eastern Hawaii Island, United States**

ハワイ島，キラウエア火山のEast Rift Zoneでは，2018年4月下旬から火山活動が活発化し溶岩流出が続いた．同年6月4日には，Fissure8から流出した溶岩流がハワイ島東部のカポホ湾に流入したことが確認された．写真はその様子を6月6日朝に撮影したものである．カポホ湾はすでに溶岩流により埋め立てられており，デルタが形成されていた．溶岩流の先端では海水が激しく蒸発し，lazeが立ち上っている様子が観察された．写真右側には1960年カポホ溶岩が分布している．写真中央の，二手に分かれた溶岩流に挟まれた地形的高まりは数百年前に形成されたカポホ火砕丘である．（撮影：齋藤武士）

**（下）Fissure 8の溶岩噴泉とそれに伴う溶岩流：Lava fountain of the Fissure 8 and the associated lava flow**

6月6日夜に撮影したもので，Fissure8の溶岩噴泉とそこから流出する溶岩流が確認できる．赤熱した溶岩により，上空の雲が赤く染められている．これは火映現象と呼ばれる．（撮影：齋藤武士）

FAX送信先：03-5823-1156

回答期限：9月末

# 地質学雑誌あり方についてのアンケート

**郵送，FAX，電子メール，WEBフォーム　いずれでも回答可（次頁参照）**

地質学雑誌が原稿不足で毎月発行が危ぶまれる状況にあり，また同時に会員減により学会財政が厳しい状況にあります．これらをふまえ，地質学雑誌についてのアンケートを行いますので，ご回答下さいますようお願いいたします．

2018年6月
地質学雑誌タスクフォース（TF）

1. あなたの年齢は幾つですか？（どれかに○）
(1) 25以下 (2) 26 ～ 35 (3) 36 ～ 45　(4) 46 ～ 55　(5) 56 ～ 65　(6) 66 ～ 75　(7) 76 ～ 85　(8) 86以上

2. あなたの所属はどれですか（どれかに○）

| | 現在 | 元職 |
|---|---|---|
| 高校生以下 | | |
| 大学生 | | |
| 大学院生・研究生 | | |
| 大学・高専（教員） | | |
| 小学校～高等学校（教員） | | |
| 民間企業（地質関係職） | | |
| 民間企業（地質関係職以外） | | |
| 博物館職員 | | |
| 公務員・独法等（行政系） | | |
| 公務員・独法等（地質関係職） | | |
| 自営業 | | |
| アルバイト | | |
| 無職 | | |

3. あなたのネット環境についてお伺いします．
1）geo-flashのメールが届いていますか（どちらかに○）
(1) はい　(2) いいえ
2）pdfファイルのダウンロード･閲覧ができますか？（どちらかに○）
(1) はい　(2) いいえ

4. 本タスクフォースでは，地質学雑誌投稿状況，財務状況等で検討した結果，以下の地質学雑誌・ニュース誌の配布パターン候補を考えました．1）～ 6）のうちどれがいいですか？

| | 地質学雑誌 | ニュース誌 | 1つ○ | コメント（自由記載） |
|---|---|---|---|---|
| 1) | ダウンロード | ダウンロード | | |
| 2) | ダウンロード | 紙媒体（毎月） | | |
| 3) | 紙媒体（隔月*） | 紙媒体（毎月） | | |
| 4) | 紙媒体（隔月*） | 紙媒体（隔月） | | |
| 5) | 合併紙媒体（毎月†） | | | |
| 6) | その他 | | | |

*欠号がありうる　†論文が掲載されない号がありうる

5. 自由記載（電子化，隔月化など，忌憚なきご意見をお願いいたします）

## 【このアンケートを行う背景について】

地質学雑誌は今年度末の125周年特集号シリーズの終了後，毎月発行が危ぶまれる状況にあります．これまでも欠号を出す危機がしばしばありましたが，投稿数の長期的推移を見ると，月刊のままでは毎年複数の欠号が出ることが数年のちに常態化すると予想されます．こうしたことから昨年来，本タスクフォースは完全電子化（冊子体の廃止）や隔月刊化などの対応を検討してきました．

完全電子化では，受理後PDFができた論文からアップロードするので，号という区切りがなくなり，欠号の危機は完全になくなります．しかし，直接雑誌を手にする利便性や，図書館等でのプレゼンス，会員の学会所属意識を毀損するとの意見もあります．隔月刊化では，欠号の危機は当面避けられますが，10年後20年後も安定的刊行が可能かは不透明です．

また，地質学雑誌をどうするかは，ニュース誌をどうするかという事とも連動し，以下の1994 ～ 1997年の状況に戻すことも考慮対象になります．

一方で，近年の会員数の減少に伴い，学会の収入も減少しています．現在の出版スタイルを維持するならば，将来的には会費の値上げも検討しなければいけない状況にあります．

このため本タスクフォースでは．地質学雑誌の今後のあり方について会員各位のご意見をうかがいたいと考えていますので，アンケートをお願いするものです．

### 1. 地質学雑誌の変遷（近年）

1993年（99巻）まで　B5版，ニュース部分を含む．

1994年（100巻）～ 1997年（103巻）　A4版，ニュース部分も含む．

1998年　科研費の補助をもらうために，ニュース部分を分離

現在，科研費補助なくなった，また出版3か月後からWeb公開中

なお，この数年，編集委員会では，報告・巡検案内・解説等のカテゴリを増やし，投稿増を狙ってきました．

### 2. 本学会の会員の動向と投稿状況

会員数約3600名．少子化の影響等により60 ～ 70人/年減が続いています．

メールアドレスを登録し，geo-Flashが届く会員は2200人程度で，会員の約60％にとどまります．

地質学雑誌の投稿数は，1998年以降漸減しています．研究者がインパクトファクター付きの国際誌を目指さざるを得ない状況，会員減に伴う投稿者数の減少，細分化した専門分野の雑誌に原稿が流れたこと，などが理由と見られます．

### 3. 経費面を含めた検討

近年会員数は減少傾向にありますが，会員減が現在のペースで進むと仮定した場合，雑誌出版を含む現状の学会活動のレベルを維持するためには，将来的に会費の値上げが必要となります．

※以下，あくまで現状の会員減のペースが保たれ，雑誌等でその経費節減分を賄ったと仮定した場合です．

1）地質学雑誌とニュース誌を完全に電子化し紙媒体を廃止した場合，当面の会費の値上げは避けらます．

2）地質学雑誌を隔月にした場合に，ニュース誌を毎月送付すると学会財政にメリットはあまりありません．ニュース誌も隔月にすると数年は会費の値上げが避けられそうですが，各種お知らせが遅れます．

3）地質学雑誌とニュース誌を毎月合併号にすると，3年程度は会費の値上げは避けられそうですが，論文の載らない号がでることがあります．

4）地質学雑誌とニュース誌を電子化し，紙媒体を希望者のみに配布する場合，数年は会費の値上げは避けられます．紙媒体を希望する会員が半数とすると，紙媒体の不要な会員は会費をある程度下げられる可能性がある一方，紙媒体の必要な会員の会費は上昇します．反面，事務局業務の増加が全体的な経費増になることは考慮が必要です．

### 4. アンケートのお願いにあたって

本タスクフォースは，メール登録会員の数を認識した時に衝撃を受けました．現状で即座に完全電子化した場合，多くの会員に不利益が及ぶのは必至で，本タスクフォースとしても，苦慮しているところです．このためぜひアンケートにご協力ください．

下記いずれの方法でも結構です．ご協力をお願い致します．（**回答期限：2018年9月末**）

1）郵送：〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル6F　日本地質学会事務局

2）FAX：03-5823-1156
前ページの回答フォームを利用してFAXもしくは郵便でご返送ください（コピーでも可）．

3）電子メール：main@geosociety.jp
回答の情報を直接メールでお送り下さい．

4）WEB画面<http://www.geosociety.jp/publication/content0090.html>
上記URLのWEB入力画面からご回答下さい．

「子どもゆめ基金助成活動」
体験の風をおこそう
この教材は、平成29年度子どもゆめ基金(独立行政法人国立青少年教育振興機構)の助成金の交付を受けて、一般社団法人日本地質学会が作成したものです。

一般社団法人日本地質学会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町 2-8-15　井桁ビル
TEL：03-5823-1150　問合せ：main@geosociety.jp

※非営利目的の青少年教育活動で使用する場合にはご連絡ください。

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp